

# 『慕風抄』——翻刻と紹介——

石澤 一 志

\*キーワード

連歌 寄合書 万葉集 古訓

## 一

宮内庁書陵部に蔵されている『慕風抄』という名の一冊の本がある。他に類本は知られない、いわゆる孤本である。古文獻に所収される万葉集本文の集成・研究で知られる、渋谷虎雄によって言及された以外には、これまでほとんど取り上げられたことのなかった一本であると思われるが、その本文を一読すると、項目として挙げられた事物と、それに関する和歌・物語・漢詩文が多く引用され、分類も含めて、一見歌学書の様にも思われる。しかし、その左注の随所に「寄合」の文字が散見されることから、連歌に関連する内容を持つものらしい。

以下本稿では、書誌について報告し本文を翻字して示すとともに、内容についてのごく基本的な考察を加えた紹介を行いたいと思う。

## 二

最初に書誌を記す。『慕風抄』<sup>注1)</sup>は、宮内庁書陵部蔵で、函架番号は、五〇一―八七二。写本、一冊。袋綴装で、四ツ目綴。大きさは、縦二八・一糎、横二〇・四糎。表紙は、海松色地に鳳凰牡丹唐草の刷文様を施した紙表紙。左端に押発装あり。外題には「慕風抄」と墨書した、縹色地龍文刷唐紙題簽(縦一六・一糎、横三・五糎)を表紙左肩に貼付する。所蔵者の情報によれば、靈元天皇筆。本文料紙は楮紙、見返しは本文共紙で素紙。内題は巻首・二丁オモテに「慕風抄上」とあり、二三丁ウラ二行目には「慕風抄下 雑部下」<sup>注2)</sup>ともあることから、上下二冊から成る作品であることが分かる。本文は一面一二行、和歌は一首一行書き、字高面、約二二・五―二三・〇糎でこれを書写する。猶、本書の表記上の特徴として、本文を漢字・片仮名交じりで書写する点が挙げられる。また歌頭および本説・本文の出典を、朱筆にて注記する他、本文異同を「イ」として傍記し、漢詩文の引用にも付訓・傍記が見られる。本文の丁数は五八

丁、遊紙が前後各一丁にあり、よつて墨付は五六丁。奥書・識語等はない。蔵書印は「図書／寮印」（朱陽刻方印、三・〇糧）を、二丁オモテ右上隅に捺す。筆者については未詳であるが、装訂の特徴・題簽筆者、および整理番号から判断して、いわゆる御所本であることは明白であり、書写年代は江戸前期と見てよいであろう。

### 三

先行研究で、本書『慕風抄』に言及しているのは、渋谷虎雄「古文献所収万葉和歌索引」補遺（五）（『学大国文』16（大阪教育大学）、一九七三・三、後に『古文献所収万葉和歌集成』室町後期、桜楓社・一九八五に再録）のみである。渋谷は略書誌を掲げた中で「奥書も無く、著者・成立年代ともに未詳である。ただ片仮名書きで、字体も古風であり、室町時代を下らないものと考えられる」とする。そして本書中の万葉集歌一四〇首を対象に訓の内容について考察を加えているのだが、それによれば、『五代集歌枕』『夫木抄』『歌枕名寄』『万葉集一葉抄』などに所収される万葉歌と比べると六割ほどが同訓である一方、まったくの異訓も多く、それらの中には誤脱もあるが、一部には仙覚改訓以前の古訓を伝えているという意味で注目すべき本である、と指摘している。蛇足ながら示すと、それは本書本文中の、

万三 コモリエノハツセノ山ノ山キハニイサヨフ雲ハイモニカモアラム  
私云カクラクノハツセコモリエノカクレヌノハツセナト古點二ハ  
點セリ仙覚律師カ新點二ハコモリソト點セリ（37オ）

#### （難波海）

万十五 タラシヒメ御船ハテケン松浦ノ海イモカマツヘキ月日ヘヌヘク

タラシヒメトハ神功皇后ノ御事也御船ハテケントハトメ

ケン也泊ノ路ヲ新點二ハ泊ト點セリ（44オ）

の二箇所から明確にそれと知り得る。<sup>注③</sup>

渋谷の指摘は重要であるが、氏はこの本が一体どのような性質の本であるのかについては、全く言及されていない。つまり一体どのような意図を以て一四〇首もの万葉歌を引用するのか、ということについては触れておられないのである。しかしながらそれは、左注に表れる「寄合」の語、及びそれに準ずる「付」（つく）という語に示されているように思われる。以下、文中に顕れる「寄合」「付」の語を含む部分を挙げてみると以下のようになる。

#### 岩屋

万二 常盤ナル岩屋ハ今モ有ケントスミケル人ソツネナカリケル

トヨ国ノ鏡ノ山ノ岩戸タテカクレニケラシマテトキマサス

川内王ヲ豊前国鏡山ニストキキテ手持ノ女王

ノヨメル哥也

私云天照大神ノ御事ニ石戸ト付ヌレハ難儀也 (3オ・ウ)

万六

タチカヘリ古キ都ト成ヌレハ道ノ芝原長クヲヒニケリ

是ハ奈良ノ荒タル時ノ哥ト事書ニ見ヘタリ

奈良ニ芝原寄合也

(11ウ)

桐 井梧 穢葉動秋聲 中興詩

(5ウ)

梧楸影中一聲之雨空灑 此句ハ吟作也梧ニ枝ヲ付事はヨリ始レリ

(桐)

緑空委 哀イ 一本 アヲ木立ミトリノ空メツラシキ寄合也

商路驛見 舊桐樹 一

私云商路ハ所ノ名也コ、ニ驛有ト見ヘタリ

桐ニ驛寄合無子細

(6オ)

(梨)

事書ニ伊勢ノ御幸ニマカリトマリテト有此哥梨トハナケ  
レトモ梨ニヲフノ浦ト付ヌレハ難儀也

海 フナノリ 赤モ 此等寄合ナル程ニ是ヲノス

(6ウ)

(林)

片山 雲 桂 万松 同竹 同橋 栗

弓弦葉 奥山大切ノ寄合也

(10ウ)

(芝)

(藤)

スヘラキノカサシニヲレル藤ノ花ヲモハヌ枝ニ袖カケニケリ

裏葉シケルナムト寄合也

蓮

ハチス葉、カタコソアレトヲキ丸カ家ナル物ハイモノ葉ニアラン  
ヲキ丸ハ人ノ名也蓮ニイモノ葉寄合其興アリ (12ウ)

蘭

順家集

ラニモカレ菊モカレニシ冬ヨリモヤケニケラシナサホノ山ツラ

私云ラニハ蘭ラニトヨム事古今ノ物名ニ分明也委細

ニハ相伝ノ抄物ニ有サホ山ニ蘭モトモメツラシキ寄合也 (14ウ)

(蘋)

二月虹初見

私云蘋ニ虹ヲ付事ハ此心也

ウキクサニ神ノ手向ナト可付也

トケナル木立ニ梟ノ聲朝夕ミ、ナラシツ、私云宮ノ中

本立梟ナムトノコトハ、蓬生ト云句ニハ可付タ、蓬ト云句ニハ不可付卷ノ名ニヨリテ也  
(15オ)

瞿麦

源氏  
ウチハラフ袖モ露ケキトコ夏ニ嵐吹ソフ秋ハキニケリ

カキホニナヘタルナテシコモ面白クヲミナヘシキチカウナト

サキシム 是ハ手習ノ君ノ小野ニ住給ケル所ノ詞也

常夏ニ小野尤寄合也

(15ウ・16オ)

(雀)

銜書表周瑞

註云周武王時有ニ赤雀ニ銜書至レ戸也 私云文ニ雀ノ寄合ニメツラシ  
(19オ)

鷺

万九長  
鷺ノスムツクハノ山ノモハキヘノトアリ

文撰  
寒鷺嚇鰯 高嶺深山 嶺山寄合也

(20ウ)

鷺 鵲ニ木ヲメクルト付事此心也

月明星稀 鳥鵲南飛 繞樹工迺

鳥鵲橋頭紅葉尽 二星ノ影前秋風冷  
(20オ)

虎

万  
虎ニノリフルヤヲコエテ青洲ニタツトリテコムツルキ太刀カモ不破関ニ虎ノ寄合有可付歟又富士ヲ付事有

呂望非熊 周文王茅石ト云所ニ狩シ給ニ今日ノ狩ニハ何ヲカウヘキトウ

ラナハセ給ニ得ヘキ物ハ熊ニモアラス罷ニモアラス虎ニモアラ

ス賢人ヲ得ヘシトウラナヒケリ文王渭水ノホトリニユキ

テ太公望ヲ得テ車ニノセテカヘリ給ヌサレハ熊ニ釣占  
虎ニモツクヘシ アラキ月ノ輪 空木 (21ウ・22オ)

金

万十八  
スヘラキノ御代サカエントアツマナルミチノク山ニ金花サク  
鳥カナクアツマノ国ノミチノクノ小田ナル山ニ金アリキト云々

金ニ可付物吉野峯金峯山トテ当山ノ峯ニ金有  
菊コレハ詩金菊ト作レリ 金精九日開ト作レリ

文字一字千金ノ心也 菊露満ニ金池ニ 寄合多之  
(23ウ)

(劔)

真木タチル不破山コエテコマ劔

不破ノ関ニ劔寄合 上又 メツラシ  
(24オ)

錦寄合事

古郷 シユハイシ 朱買臣ト云人錦ヲキテカヘル

江 シヨコ 蜀国ニハ江ノ水ニ錦ヲアラフ也

魚 錦ヲ魚モテアラフ本説アリ

相思 シキフミ 錦ノ文ニ相思ノ字ヲ、リタル事也

梯 日前 錦木ニハ紅葉ヲ可付

(25才)

擣衣ニ寄合事 團 夢驚 古集詞也 鴈音月下

旅人ヲ待 蘇武妻擣衣事

(26才)

(車)

後六

岩間ニハ氷ノクサヒウチテケリ玉井ノ水モイマハモリコス

車ノ寄合此哥ヲ勘侍也

(27才)

櫛ニ竹ヲ可付事

(29才)

薰ノ寄合 君力為 梅 朽簾方アリ

履

シナノチハ今ノハリ道カリ草ニアシフマシムナクツハケワカセ

ハリ道トハアタラシクキリハラヒタル道也草木ノカリク

キヲカリハネト云也

履ニ一卷トモ文トモ可付事

瓜田不<sub>レ</sub>納履 トウ 梨下不<sub>レ</sub>整冠 ツクコ

履ニ鳧ヲ付事

王喬仙術ヲ得テ其履双鳧成飛

(29ウ)

(名所山部 小野山)

宇治 横川 泊瀬 小野寄合也

私云 比叡 室戸 是モ寄合也

(33ウ)

高円山 付野邊大和

万<sub>十</sub> キ、スナク高円山ノ桜花チリナカラフル見ル人モカナ

同九 高円ノ野ヘノ秋萩コノ比ノ曉ノ露ニサキニケムカモ

秋野 常夏 ムサ、ヒ 高円山ノ寄合也

(36ウ)

(宇治川)

宇治ニ寄合ヘキ物

(40ウ)

(須磨浦 摂津)

同巻 船ヨリ御車ニタテマツリカヘルホトニ日ヤウ<sub>く</sub>サシノホリテ

是ハ明石ノ巻ニモ有トモ車ノ沙汰ハ須磨ノ浦ニテノ事也

サレハスマノ寄合尤車大切也

(44ウ)

新古

(橋)

古ヲ思ヤリテソ恋ワタルアレタル宿ノ苔ノ岩橋

埋木ニクメチノ橋寄合也 天ノウキ雲 ト、ロキ

勢田ノ中道皆橋寄合也

(46ウ)

氷

源氏

重之御哥

コホリトケ岩間ノ水ハ行ナヤミ空ス月ノ影ソナカル、  
メツラシク今日白雲ノムラキルハ池ノ氷ヤウスク成ラン

雲ノムラキルメツラシキ詞也鶴ナトノ寄合ニワタルヘシ (47オ)

南柯夢事

昔或人槐木ノ南ヘサシタル枝ノ下ニネテ夢ニ見ル様大

槐宮国ト云国ヘ行タリケルホトニ宮殿樓閣有キ集蟻

宮ト云額オ打タル所有皮国ノ帝王此人ヲト、メテ

ムコニス則男子ヲマウケテ寵愛ナノメナラス数十年

オヘテ彼他国ヨリエヒスセメキタルホトニ是ヲナケク亦

最愛妻病ニオカサレテ失ヌ盛衰ノ習眼前也愛

敵国セメキタル間ナク、カノ国ヲ去テ本国ヘカヘルト思ヘリ

ナルホトニ夢サメテ見レハ片時ノ眠ノ中也

夢ト云句ノツマリタラン時ノ寄合

私云夢ニ粟ヲ不可付ソレモ事ニヨルヘシ粟ト云難句

有時夢ト可付也

夢ニ朝雲暮雨付事(以下略)

(48オ・ウ)

夕顔ノ

卷頭ニ花ノヲノレヒトリエミノ眉ヒラケタル眉ニ夕顔ノ花

寄合也三月寄合也

(49ウ・50オ)

類基

内外トモミエヌ扇ノホトナキニス、シキ風オイカテコメケン  
此哥神祇トシモミヘネトモ伊勢ニ内外ト付ヌレハ大事

ナル間シルス也

(52オ)

新古

シルラメヤ今日ノ子ノ日ノ姫小松ヲイン末マテサカヘシトハ

日吉ノ社司社頭ノウシロノ山ニテ子日シテ侍ケル夜ノ夢ニ

見ヘタリケルトカヤ日吉ニウシロノ山尤モメツラシキ寄合也 (56オ)

三枝筭<sup>シンシ</sup>

私云サキクサ

ツハト云寄合出来ヌレハ難義也 (58オ)

以上、四九例ほどを挙げることが出来るが、これらを見るに、本書は連歌に於ける「寄合」を説明するために、それに関する例歌・本説を列挙し集成した、いわゆる「連歌寄合書」と見るべきものである。と云われるのである。

しかし、現時点で類書となるような連歌寄合書は報告されておらず、

奥書など無いことから、この成立年代・作者とも査として知られない。

## 四

従来知られてこなかった連歌寄合書のひとつとして、今後扱われるべきものである。しかし、猶その成立・伝来等には不明な点が多く残されている。また、本書に引用される和歌・漢詩文・物語などの典拠となる本文も、引用時における誤りも含めて考えたとしても、現存諸本とは一致しなかったり、全く不明なものも見られる。渋谷虎雄の万葉集の引用についての研究成果も踏まえつつ、多方面からの検討が望まれる一書であることは疑いない。稿者も今少し考えてみたいと思う次第である。

注(1) 所蔵者整理名は「慕風抄 上」となっているが、後述のように、同書中に「下」の部分までが書写されている。

慕風抄上、天象并地儀、雨・月・星・家・庵・柴戸・岩屋・駅・昔・旅部、梅・橘・柿・桐・楸・紅葉・梨・桃<sub>付季</sub>・椎・松・楨・檜・杉・棟・卯花・桜・柳・桂・椿・躑躅・檜・檜・浮木・宮木・樹・林・檀・櫨・柏・杜・竹・淺茅・芝・葎・葛・葦・紅・紫・藤・款冬・蕨・蓮・夕顔・槿・萩・萩・薄<sub>付尾花</sub>・女郎花・蘭・菊・蘋・荳・萱・麥・栗・萱草・葵・瞿麥・葦・荳立・若菜・動物部、鶯<sub>付百千鳥</sub>・千鳥・水鷄・雁・郭公・鶯・鳧・鷗・鶻・鶻・鳴・雉・鷹・庭鳥・雀・鶯・鴟・烏・山鳥・都鳥・鶯・雲雀・鶯・鷄・獸部、馬・牛・鹿・虎・猿・熊・猪・鼠<sub>付編鼠</sub>・鼯・狐・犬・菟・魚類部、魚<sub>付貝</sub>・鯛・慕風抄下、雜部上、金・玉・釵・帶・笠・扇・錦・布・綴・藤・衣・鐘・笛・琴・車・船・鏡・枕・蓆・櫛・薰・履・冠・酒・葉。

同雜部下、巖・沙巖。名所山部、小野山・小塩山・鞍馬山・小倉山・春日山・芳野山・香具山・葛城山・伊駒山・妹背山・大江山・有乳山・足柄山・富士・箱根山・高野山・志賀・龍田山・御室山・高円山・泊瀬山・音羽山・會坂山・比良山・鏡山・伊吹山・手向山・有間山・神山・関・鶯・足柄・相坂・取磨・杣・泉・楨・大井川、標茅野・野中・求塚・名取川・大井河・桂川・泉川・賀茂川・音羽川・宇治川、森・狐・村鳥・鷄・山里、貴布祢川・白川・中川・堀川・御手洗川・泊瀬川・飛鳥川・飾川・天川・最上川・名取川・玉川・思川・松浦川・玉嶋川・木幡川・難波海・取磨海、明石浦・須磨浦・敷津宇浦・苅生浦・志賀浦、小屋池・勝間田・橋・井・石清水・氷・夢・御幸、人・体・身・顔・目・眉・髪・頭・額・鬢・胸・乳・腰・足・命・心・老、神・祇・部、伊・勢・八・幡・鷲・賀・茂・春・日・皇・敵・稻・荷・日・吉・平・野・熊・野・諏・訪・鏡・社・貴・布・祢・三・嶋・松・鳥・居・社・宮・瑞・垣・祭（以下本文欠損に従い、最後未詳）。

部立の様相からは、歌学書『和歌童蒙抄』などに見られる分類に近い。

(3) 広瀬本万葉集の訓と比較してみたところ、一致するものもあるが、ほとんどが異なるもので、同書からの引用ではないようだ。本書に引用される付訓の性格の解明は、今後の課題のひとつであろう。

(4) 21ウおよび55ウ・57オに、本文の欠損と思われる部分がある。

(5) 集付は成立時からのものではなく、後人の手によるものと思われるが、そこに『万代集』『明玉集』『小倉集』などの名が見られるのはやや注意されよう。

## 凡例

- 一、『慕風抄』(宮内庁書陵部蔵・五〇一―八〇二)の翻字を行った。
- 一、底本の状態に出来るだけ忠実に翻字を行った。改行・字間・大きさなどは、底本に近い形にしてある。丁のオモテ・ウラの替わり目は「」で示した。
- 一、漢字についても、出来るだけ底本の字体を尊重したが、文意から推読し、通行の字体に近づけて翻字したところがある。また、明らかな誤記と思われる字に關しては、そのままに翻字し、(ママ)を付したところがある。
- 一、本書には集付を中心に朱の書人が見られるが、それはゴシック体で示した。

## 「慕風抄」

「表紙

「1オ

「1ウ

## 慕風抄上

### 天象并地儀

#### 春楊葛山發雲之座味念

万九

山高ミ夕日カクレノ浅茅原後見ム為ニシメユハマシヲ

人九

日本ニサケル桜ノ色見レハ人ノ国ニモアラシトソ思フ

万二

八雲立出雲ノ子ラカ黒髪ハ吉野、川ノ浪ニナツサフ

此哥ハ出雲ノ国ノ女ノ吉野河ニ身ヲナケタルヲ

見テヨメル哥也

万九

白雲ノ立田ノ山ノ瀧ノ上ノ小倉ノ峯ニヒラケタル桜ノ花ハ



源氏

四方ノ梢ソコハカトナクカスミワタルホト絵ニイト似タル

哉是ハ源氏ノ北山ヨリ京ノ方ヲナカメ給ヘル所ノ詞也

山ノ桜ハマタサカリニテ入給マ、ニ霞ノタ、スマヒモヲ

「2オ

カシウ見ユレハ 是ハ源氏ノ北山ヘワケ入御所ノ詞也

雨

拾一

桜狩雨ハフリキヌヲナシクハヌルトモ花ノ陰ニヤトラン

月

源氏

月ノカホノミキラ／＼トシテ夢ノ心チセス御ケハキ

トマレル心地シテ空ノ雲アハレニタナヒキケリ

是ハ須磨ニテ故院ノ夢ニ見ヘ給テ此浦ニハナ

スミ給ソト源氏ニツケサセ給ヘル所ノ詞也

星

万二

北山ニタナヒク雲ノ青雲ノ星ワカレユキ月モワカレテ

家 源氏佐野、ワタリニ家モアラナン

家ヲハナレサカヒヲサリテアケクレヤスキ空ナク歎給ソ

「2ウ

菴

後六

秋ノ田ノカリホノイホノトマヲアラミ我衣手ハ露ニヌレツ、

明石

海ツラ山カクレニモ時々ニツケテケウヲマスヘキアマノ

トマヤヲマナヒテ後ノ世ヲ思スマシツヘキ

柴戸

月サシ出テシホチカクミチクル跡モアラハ二名残猶

ヨセカヘルヲ柴ノ戸ヲシアケテナカメヲハフ

是ハ明石ノ巻ノ始須磨ノ山中ノ有様也

岩屋

万二

常盤ナル岩屋ハ今モ有ケントスミケル人ソツネナカリケル

同

トヨ国ノ鏡ノ山ノ岩戸タテカクレニケラシマテトキマサス

川内王ヲ豊前国鏡山ニ葬ストキキテ手持ノ女王

ノヨメル哥也

私云天照大神ノ御事ニ石戸ト付ヌレハ難儀也

仍此哥ヲノセタリ

カノ明石ノ岩屋ヨリシノヒテ侍シ御イノリノ巻数

是ハ明石入道ノ幽居也

驛

堀

逢坂ノ関ノ関守出テ見ヨ驛傳ノ鈴キコユ也

驛長無驚時変改 一栄一落是春秋

若葉巻

法花三昧ヲ行フ堂ノ懺法ノ聲山ヲロシニツケテ

同巻

キコエタルイトタウトク瀧ノ音ニヒ、キアヒタリ

同巻

吹マヨウ深山ヲロシニ夢サメテ涙モヨホス瀧ノ音哉

ツ、ラヲリ

小柴カキ 此所ニアリ

「3ウ

同巻十一

奥山ノ楨ノ板戸ヲ音ハヤミイモカアタリノ霜ノ上ニネヌ

同三 天原フリサケ見レハ白真弓ハリテカケタル夜路ハヨチム<sup>(二)</sup>  
白真弓八月也

万六 烏玉ノ夜ノフケ行ハ楸生ルキヨキカ原<sup>二</sup>千鳥鳴也

新 ヤマカツノカキホニサケル榿ハ篠ノ目ナラテ逢ヨシモナシ

昔

十一 アヒソメシ昔ノ人ノカキツハタ色ハカリコソカタミナリケレ

拾八 大井河川邊ノ松ニコト、ハムカ、ル御幸ヤ昔アリシト

拾八 昔ワカヨリシ桂ノカヒモナシ月ノ林ノ主<sup>ニ</sup>イラネハ

詞云清慎公月林寺<sup>ニ</sup>マカリケルニラクレマウテ来<sup>テ</sup>ヨメル

相聞并羈旅

万二 石見方高津ノ松<sup>山</sup>ノ木間ヨリ我フル袖ライモカミツラン

同四 白鳥ノトハ山松ノマチツ、モ我恋ワタルコノ月ノ比ヲ

同十二 紫ノ色ノ桂ノ花ヤカニ今日見ル人ニ後恋ムカハ

後十四 立田川タエナハ君カ名ヲ惜ミイハセノ森ノイハシトソ思フ

旅部

万 燈ノ明石ノ里<sup>二</sup>入日ニヤコキ別ナム家ノアタリミュ

後 ワタノヘヤ大江ノ岸ニヤトリシテ雲<sup>半</sup>見ルキコマ山カナ

梅

万八 霞タチ春日ノ里ノ梅ノ花山下風ニチリコスナユメ

同 烏玉ノ其夜ノ梅ヲタハスレテヲリテコント思シ物ヲ

古五 日枝ヲワキテ木ノ葉ノ色ツケハ西コソ秋ノハシメナリケレ

綾綺奥ノ前ノ梅ヲヨメル

古 人ハイサ心モシラス古郷ノ花ソ昔ノ香ニ匂ケル

此花ハ梅也泊瀬ノ宿ニテヨメルト事書ニアリ

橘

万六 橘ノミサヘ花サヘ其葉サヘ枝<sup>二</sup>霜ヲケトマシトキハノ木

同二 橘ノ影フム路ノ八千マタニ物ヲソ思フイモニアハステ

橘ノ林ヲウヘテ時鳥コ、ラナクマテスミワタルカモ

吾門ノ花橘ハチリ過テ玉ニヌクヘクミハナリ<sup>ニ</sup>ケリ

トコヨ物コノ橘ノイヤテリニ我大君ハイモ見ルカコト

トコヨトハ蓬萊也万葉ノ九卷ニ浦嶋カ哥<sup>ニ</sup>蓬萊ト

書テトコヨト點セリ昔菌道真守ト云シ人トコヨヘワタリ

テカノコノミヲ取テ帰来ル則橘也ト申傳タリ

橘ノ木丸殿ニカホル香ハトハヌニ名ノル物ニソ有ケル

木丸殿ハ筑前国ニアリ天智天皇ノ暫皇居ニテ有

「 5 オ

ケル時閑ヲスヘテ往来ノ人ヲナノラセケル仍木ノ丸殿<sup>二</sup>名

ノリトハヨミナラハセリ

我宿ノ花橘ノ色ミレハ金ノ鈴ヲナラスナリケリ

橘ノ下テル庭ニイエ立テサカヘソキマス我大君ハ

柿

古 神カキノ三室ノ山ノ柿葉ハ神ノ御前ニシケリ合ケリ

「 4 ウ

拾十  
チハヤフル三笠ノ山ノ榊葉ノサカヘソマサル末ノ代マテニ  
千廿  
ヲシナヘテ雪ノ白ユフカケテケリイツレ榊ノ梢ナルラン

桐 井梧 繼葉 動秋聲 中興詩

梧楸影中一聲之雨空灑 此句ハ吟作也梧 終ヲ付事是ヨリ始レリ

春風桃李花開日 秋露梧桐葉落時

糸梧合為琴中有太古聲一 株青茎裏千一葉

緑空委 哀イ 一本 アヲ木立ミトリノ空メツラシキ寄合也

葉重碧雲聲 花蘇紫霞英 夜色向月浅

暗香隨風輕 上対 二月中桂 一 下覆階前衰

商路驛見 二舊桐樹 一

私云商路ハ所ノ名也コ、ニ驛有ト見ヘタリ

桐ニ驛寄合無子細

楸

君コフトナルミノ浦ノ濱ヒサキシホレテノミモ年ヲフル哉

去年サキシヒサキ今サキイタツラニ土ニヤヲチン見ル人ハナシ

楸ノ花メツラシ此哥ハ春也

紅葉

万十五  
アマ雲ノタユタヒラレハ長月ノ紅葉ノ山モウツロヒニケリ

後七  
玉鬘カツラキ山ノ紅葉、ハ面影ニノミ見ヘワタル哉

拾三  
水ノアヤニ紅葉ノ錦カサネツ、川風ニ波ノタ、ヌ日ソナキ

「 6オ

水ノアヤハ水ノ文也

梨

新吉

桜アサノヲフノ浦波立カヘリ見レトモアカス山ナシノ花

梨ナツメ君ニアフヘキハフクスノ後モアハムトアフヒ花サク

ヲフノ浦ニ船ノリスランワキモコカ赤モノスソニシホミツランカ

事書ニ伊勢ノ御幸ニマカリトマリテト有此哥梨トハナケ

レトモ梨ニヲフノ浦ト付ヌレハ難儀也

甘棠勿レ鑽 梨下不正冠 文 梨花一 枝帯レ春雨

露霜ノサムクナリユク秋風ニ紅葉シニケリツマナシノ木ハ

毛

桃付李

万十

我ヤトノ毛桃ノ下ニ月夜ヨシシタ心ヨシウタテコノ比

物イハ、トハマシ物ヲ桃ノ花イク代カヘタル瀧ノシラ糸

我蘭ノ李ノ花カ庭ニチルハタレノイマタノコリタルカモ

後

万七

片岡ノムカヒノ峯ニ椎マカハ今年ノ夏ノ影ニ見ムカモ

我宿ニ君コヒ椎ノ中タヘテツミノムクヒヤ相見サルラン

六帖

ハシ鷹ノトカヘル山ノ椎柴ノ葉カヘハストモ君ハワスレシ

拾十八

椎輪為大輅之始 大輅寧有二椎輪之質

万二

三吉野、玉松カ枝ノハシカキモ君カ御コトライマモチカハ、

松

「 6ウ

葉シカキトハ葉シケキ也

「7オ

万九 八千クサノ花ハウツロフトキハナル松ノサ枝ヲ我ハタノマン

金一持 白浪ノ濱松カエノ手向クサイク代マテニカ年ヲヘヌラン

俊人頼丸 イクカヘリ花サキヌラン住吉ノ松モ神代ノ物トコソキケ

万帖六 ミソレフル美松原住吉ニ思フヲトメトミレトアカヌカモ

拾八 夜ト共ニ明石ノ浦ノ松原ハ浪ヲノミコソヨルトシルラメ

楨

万二 スヘラキノ神ニシマセハ楨ノタツアラ山中ニ海ヲナスカモ

万二長 コモリエノハツセノ山ハ楨タテルアラ山ミチヲ

時雨ノ雨ソメカネテケリ山城ノトキハノ森ノ楨ノ下葉、

檜

シントツキ、カセヲウツリカシム  
深洞聞レ風老檜悲

初瀬山タヲ暮テ宿トヘハ三輪ノ檜原ニ秋風ソフク

万十三 古ニアリケン人モ我コトヤ三輪ノ檜原ニカサシ折ケン

「7ウ

杉

古 泊瀬川古河野邊ニ二本有杉年ヲヘテ又モアヒ見ム二本有スキ

万 我セコヲ都エヤリテマフシサス足柄山ノ杉ノ木ノ間カ

棟 栲イ

万五 イモカミシアフチノ花ハ散ヌラシ我ナク涙イマタヒヌマニ

散木 アフチサク北野、芝生五月キヌミサリシ人ノ形ミハカリニ

卯花

万十 時シラス玉ヲソヌケル卯花ノ五月ヲマタハヒサシカルヘシ

同 五月山卯花月夜時鳥キケトモアカス又モナカンカモ

拾二 卯花ヲ散ニシ梅ニマカヘテヤ夏ノカキネニ鶯ノナク

金 卯花ノサケルカキネハ葦火タクシツカフセヤモヤフレサリケリ

鶯ノカヨウカキネノ卯花ノウキコトアレヤ君カキマサヌ

「8オ

櫻

万十 足引ノ山桜戸ヲアケヲキテ我待君ヲ誰カト、ムル

吉二 桜花サキニケラシナ足引ノ山ノカヒヨリミユル白雲

山ノカヒハ山ノアヒ也峽ノ字カヒトヨム也

紅ノウス花桜ニホハスハ皆白雲ト見テヤスキナム

紅ノ桜ハ朱桜ノ心也 黄鶯漸無聲 朱櫻新緒実

イトツナク大宮人ノ恋シキニサクラカサ、ム今日モキニケリ

須磨ニハ年カヘリテ日長クツレノナルニウヘシ若木ノ

桜ホノカニサキソメテ 御前ノ哥同詞也

花新古 カキコシニミルアタ人ノ家桜花チル斗ユキテヲラハヤ

柳

後拾 夏衣立田川原ノ柳陰ス、ミニキツ、ナラス比カナ

「8ウ

青柳ノハナタノ糸ヲヨリアハセタエスモ鳴カ鶯ノ聲

ヤキカシテキリヨクエタマツコウ  
柳無レ氣力枝先動 龍池柳ノ色雨ノ中ニ深

セウケンシンノハアツシマエヨリモ  
昭君村柳翠ニ於眉一 岸口風来混レ葉蘋

桂 金 久方ノ月ノカツラモヲル事々々々

「 9 ウ

昔我ヲリシ桂ノカヒモナシ月ノ林ノ主ニイラネハ

潭心月泛 交枝桂 タニシツキノハナノエノハナノエ 李為レ梁桂之為桂 リヲシノハナノエノハナノエ 文集

驚風振レ葉香分ニ於紫桂之林 オドロクハナノエノハナノエ 都良香

御マヘナル桂ノ木モ下風ナツカシトアリ

梟鳴松桂之枝 カウノハナノエノハナノエ 狐隱蘭菊之藜 コノハナノエノハナノエ

紅葉スルカツラノ中ニ住吉ノ松ノミトリハ青葉也ナリ

椿 桂是 白玉

川上ノツラノ椿ツラノト見レトモアカスコセノ春野ハ

「 9 オ

我ソトモ椿ノ枝ヲミツル哉灰ニナルヘキ程ノチカサニ

躑躅

カハツ鳴吉野、川ノ瀧ノ上ノツ、シノ花ハチリコスナユメ

岩ノ上ニヲフルツ、シヲヲラメト見スヘキ君カ有トイハナクニ

檣

奥山ノシキミカ花ノ名ノコトヤナクノ君ヲ恋ワタリナン

愛宕護山シキミカ原ニ雪ツモリ花ツム人ノ跡タニモナシ

角総巻 檣ノ花ヤカニカホレルケハキトアリ

梢 鶯 雲

音羽山ケサ越クレハ時鳥梢ハルカニ今ソ鳴ナル

山キハノ梢アラハニ見ヘテ雲ウスクトアリ

柏木ニヒトツ有ナル四方ノ梢モヲカシク見ヘタリ

樹 古神無月時雨フリヲケル々々々

アサマタキナラノカレハノソノト外山ニ出テマシラ鳴也

浮木

天河浮木ニノレル我ナレヤ有シニモアラス世ハナリニケリ

漢武帝時張博望ト云人有之尋河源浮木ニ乗テ

天河ニノホリテ牽牛織女ヲ見ルト云々

宮木

大原ヤヲ、ヒエノ杣ニ宮木ヒキイツレノネキカイハイソメケム

サ、浪ヤ近江ノ宮ハ名ノミシテ霞タナヒキ宮木シソナキシ

樹

心ナキ樹モ法ヲトクナレハ花モサトリヲサソヒラクラン

東ノ市ノ樹ノ木タルマテアハヌ君ユヘ我恋ニケリ

「 10 オ

林

アマノ海雲ノ波タチ月ノ舟屋ノ林ニコキカクル見ユ

薪ツキ雪フリツモル鳥ヘ野ハ鶴ノ林ノ心地コソスレ

片山 雲 桂 万松 同竹 同橋 栗

弓弦葉 奥山大切ノ寄合也

旅人ニ宿カスカ野、ユツル葉ノ紅葉セム日ヤ君ヲワスレン

檀

ヤリ水シタルホトリニケシキコトニヒロコリフシタル檀ノ木ノ下ニ松

オトロくシカラヌ程ニヲキテサシ、リソキトモシタレハトアリ

櫛モスノキルハシノ立エノウス紅葉誰我宿ノ物ト見ルラン

柏 鶉鳴カタノニ立ルハシ紅葉チリヌ斗ニ秋風ソフク

我セコカサ、ケテモタル大柏ノイタクモニタリアヲキキヌカサ

― 10ウ

杜色くノ木ノ葉手向テ秋ハ今日生田ノ森ニ門出シテケリ

竹 昨日タニトハント思シツノクニ生田ノモリニ秋ハキニケリ

竹風鳴葉月明前 風生竹夜窓間臥

唐太子ノ賓客白楽天愛為吾友 簡茂

竹是空心故故為吾友 白樂 岸竹枝低応鳥宿

竹斑湘浦雲凝ニ鼓瑟之跡

須磨ノ卷ニ竹アメルカキシワタシテ石ノハシ松ノハシラオロ

ソカナル物カラメツラカニヲカシ山カツメキテ是ハ

源氏ノスマノ山里ノスマキ也

浅茅

万十 ヤタノ野、アサチ色ツクアラチ山峯ノアハ雪サムクフルラシ

拾 浅茅原主ナキ宿ノサクラ花心ヤスクヤ風ニ散ラン

― 11オ

源氏 アサチフノ露ノ宿リニ君ヲ、キテ四方ノ嵐ソシツ心ナキ

芝

六帖 浅茅生ノ小野、シハ原イカナレハ手飼ノ虎ノフシトナルラン

万六 タチカヘリ古キ都ト成ヌレハ道ノ芝原長クラヒニケリ

是ハ奈良ノ荒タル時ノ哥ト事書ニ見ヘタリ

奈良ニ芝原寄合也

葎

草モタカクナリ野分シイト、アレタル心チシテ日ノ影

ハカリハ八重葎ニモサハラスサシ入タル

是ハ桐壺ノ更衣ノウセ給テ後母君ノモトヘ御使ノ

タネタリシ所ノ詞也

八重ムクラ心ノウチニフカケレハ花見ニユカム出立モナシ

― 11ウ

御作

水鳥ニイサコト、ハム八重葎ムクラノ宿ハウキ名ナリケリ

葎

ツ花ヌクアサチカ原ノツホスミレ今サカリナリ我コヒラクハ

春ノ野ニスミレツミニトコシ我ソ野ヲナツカシミ一夜ネニケル

紅

万十八

春ノ日ノ紅匂フ桃ノ花シタテル道ニ出立シカモ

ヨソニノミ見ツ、ヤ恋ム紅ノツム末ツム花ノ色ニイテステ

短古

紫

ヨソニミテカヘラン人ニ藤ノ花ハヒマトハレヨ枝ハラルトモ

― 12オ

事書ニ云志賀ヨリ帰ケル人共ノ花山入テ藤ノ花ノ

モトニ立ヨリテカヘリケルニヨミテ送りケル

スヘラキノカサシニヲレル藤ノ花ヲモハヌ枝ニ袖カケニケリ

裏葉シケルナムト寄合也

款冬

万二 山吹ノニホヘル山ノ下水ハクミニユケトモ道ノシラナク

堀 岩ネコス清瀧川ノキヨケレハ波ヲ分タル岸ノ山吹

蕨

同 深山木ノ陰野、下ノ下蕨モヘ出レトモシル人モナシ

蓮

ハチス葉、カタコソアレトヲキ丸カ家ナル物ハイモノ葉ニアラン

ヲキ丸ハ人ノ名也蓮ニイモノ葉寄合其興アリ

「12ウ

夕顔

アヲヤカナルカツラノハヒカ、レル白花ノヲノレヒトリエミノ眉ヲ

ヒラケルヲオチカタ人ニ物申トクチスサミ給ヘルヲ御隨身ツ

キ、給テ是ナン夕顔ト申侍也名ハ人メキテアヤシキ

カキニネニサキ侍トキコユ是ハ源氏ノ大式ノ乳母ノ家ノ門ヲ

アクル程車ヲ立テ給ヘリシ時ノ事也ヲチカタ人ニ物申スト

アルハ古今ノ旋頭哥ニシロクサケル花トイヘル詞ハカリヲトリ

テ此物語ニハカケル也古今ノ花ヲ夕顔トハ有可定ニヤアラン

タ、ヲコナヒタル聲ニテヌカツクソキコユ是ハ夕顔ノ宿ノ

ホトリニ吉野詣ノ行人ノヌカツクヲトヲ源氏ノキ、給ヘル所也

ヌカツクトハヲカミスルヲ云也額此字ヲヌカトモヨム也ヲカミ

スルニハ額ヲツケハ也

「13オ

俊頼 コノウチモ浦山シキハ山カラノ身ノ程カクスタ顔ノ宿

瓢箪ヒョウタン屢ヒシ空草カラクサ滋シ顔淵カンエン之巷ノキョウ

槿

伊勢 我ナラテ下ヒモトクナ槿ノ夕影マタヌ花ニハアリトモ

是業平朝臣小野小町ニ逢テヨメル也

神カキニカ、ルトナラハ槿モ夕暮マテニ匂ハサラメヤ

事書ニ云賀茂ノイツキトイハレケル時本院ノスイカキニ

アサカホノ花ノサキカ、リテ侍ケルヲヨム也

新古 ナニカ思ヲフナニトカナケク世ノ中ハタ、槿ノ花ノ上ノ露

金 明方ノハツカシケナル槿ヲ鏡草ニモ見セテケル哉

堀 浦風ニ浪ヤヨスラン夜モスカラ思明石ノアサカホノ花

槿ヲ扇ニウチヲキテ見給ヘルニヤウ／＼アカミ行モ有

「13ウ

ケハキヲカシク見ユ

萩

万八 アスカ川ユキ、ノ岡ノ秋萩ノ今日フル雨ニ散ヤスキナム

後 萩原モ霜カレニケリ宮木野ニアサル雉スノカクレナキマテ

萩カ花クス花ヲ花ナテシコノ花女郎花又フチハカマ槿ノ花

萩

新古 夏カリノ萩ノフルエハカレニケリムレキシ鳥ハ空ニヤ有ラン

軒チカキ山下萩ノ聲タテ、ユフヒカクレニ秋風ソフク

薄付尾花

古勢 花ス、キ君ナキ宿ニムレ立テ空ヲマネカハ 初雁ノ

今ヨリハツキテフラナム我宿ノス、キヲシナミフレル白雪

古 君カウヘシ一村ス、キ虫ノネノシケキ野ヘトモミミ

「14オ

女郎花

後六 七タニタル物哉女郎花秋ヨリ外ニアフ事モナシ

蘭

順家集 ラニモカレ菊モカレニシ冬ヨリモヤケニケラシナサホノ山ツラ

私云ラニハ蘭ラニトヨム事古今ノ物名ニ分明也委細

ニハ相伝ノ抄物ニ有サホ山ニ蘭モトモメツラシキ寄合也

古 カリニクル人モキヨトヤ蘭秋ノ野コトニ鹿ノ鳴ラン

菊

拾 サキマシルクラキノ山ノ菊ノ花コキ紫ニ色ソウツロフ

坂上 影サヘニ今又菊ノウツロフハ浪ノ底ニモ霜ヤクラン

事書ニ云延喜御時大井河ノ行幸ニ

蘋

「14ウ

源氏 世ノ中ノウキニウキタル蘋ハ涙ノ川ニ根ヲヤノコサン

ケツニシハシテミユ  
二月虹初見 私云蘋ニ虹ヲ付事ハ此心也

ウキクサニ神ノ手向ナト可付也

荳 荳 荳ノ関守ニノミミミ

万 ミチノクノ真野、萱原遠ケレハ面影ニシモ見ユルト云物ヲ

蓬

蓬生卷 モトヨリアレタリシ宮ノ中イト、キツネノスミカト成ケウ

トケナル木立ニ梟ノ聲朝夕ミ、ナラシツ、私云宮ノ中

木立梟ナムトノコトハ、蓬生ト云句ニハ可付タ、蓬ト云句ニハ

不可付卷ノ名ニヨリテ也

新古 荒小田ノ去年ノフルエノフル蓬今ハ春ヘトヒコハヘニケリ

麦

「15オ

山カツノハタニカリホス麦ノホノクタレテ物ヲ思フ比哉

粟 アハノ事春日野ニモヨメリ

万 足柄ノハコネノ山ニ粟マキテミニハナレルヲアハマクモアヤシ

萱草

万 忘草我ヒモニツクカク山ノフリニシ里ヲワスレシカタメ

葵

堀 日影山ヲフル葵ノウラワカミイカナル神ノシルシナルラン

イカナレハ其神山ノ葵草年ハフレトモニ葉ナルラン

瞿麦

源氏 ウチハラフ袖モ露ケキトコ夏ニ風吹ソフ秋ハキニケリ



カキホニナヘタルナテシコモ面白クヲミナヘシキチカウナト  
サキシム 是ハ手習ノ君ノ小野ニ住給ケル所ノ詞也

「15ウ

常夏ニ小野尤寄合也

葦

万 アシカモノサハク入江ノ白波ノ知スヤ人ヲカク恋ムトハ

莖立

好忠 御苑生ノナツナノ花モク、タチヌス、メノ聲モナシメキニケリ

万 カミツケヤサノ、ク、立ヲリハヤシ我ハマタンヤクルトシラストモ

若菜

万 ナニハエハ人ノキケレハヤクレキテワカナツムコヲ見ルカ、ナシサ

春立テ今日ハ七日ニ春日野、若菜ハマタソニ葉ナリケル

動物部

鶯 付百千鳥

万 アサナノ我見ル柳鶯ノキキテ鳴ヘキ森ニハヤナレリ

「16オ

古 百千鳥サヘツル春ハ物コトニアラタマレトモ我ソフリ行

千鳥

古 霜サユル汀ノ千鳥ウチワヒテ鳴ネカナシキアサホラケ哉

天中 川瀬ニモ雪ハフルトモ宮ノ中ニ千鳥鳴ナリイムトコロナシ

白浪ニハネウチカハシ濱千鳥カナシキ物ハ夜ルノ一聲

水鶏

後 八重葎シケレル門ノイフセサニ知スヤナニヲタ、ク、キナソ

タ、クトテ宿ノ妻戸ヲアケタレハ人ハ梢ノ水鶏ナク也

鴈

源氏 小夜中ニ友ヨヒマヨウ鴈モウタテ吹ソフ荻ノ上風

楊柳風 高鴈送秋

郭公

「16ウ

俊賴 ナトテカク思ソメケム時鳥雪ノ大山ノ鳥ノコエカハ

万 五月山卯花月夜時鳥ナケトモアカス又ナカンカモ

万 朝霧ニシト、ミヌレテヨフコ鳥御船山ヨリ鳴ワタル哉

後二 東路ノナコソノ関ノヨフコ鳥ナニ、ツクヘキ心ナルラム

後二 我ヒトリキク物ナラハヨフコ鳥ニ聲マテハナカセサラマシ

鴛 鳧

為経 池ニスムヲシ明方ノ空ノ月袖ノコホリニナクノソ見ル

住正 トナセヨリウキテナカル、紅葉ハニツレテソ下ル鴛ノ村鳥

鳧 鐘夜鳴闇徹ニ暗天之聴

柞チル岩間ヲク、ル鴨鳥ハヲノカ青葉モ紅葉シニケリ

王喬双鳧杏

鷗

「17オ

垂翅沙鷗湖落曉 紫鷺白鷗逍遙翠簾之下

万 国ハラハケフリタチタツウナハラハ鷗タチタツ面白キ国ソ

是ハ天香具山ニホリタル哥也

鶴

拾 高砂ノ松ニスム鶴冬クレハ尾上ノ霜ヤヲキマサルラン

夜鶴眠驚松月<sup>ヤキイロイロイ</sup>苦<sup>ハハタシ</sup>洞裏移家<sup>トウリニツツテ</sup>鶴ト<sup>シム</sup>隣<sup>トナリ</sup>

鶉

万十七 ウツラ鳴フルエト人ハ思ヘトモ花橘ノ匂フ此ノ宿

堀 鶉鳴狩庭ノ小野、カルカヤノ思ヒミタル、秋ノ夕暮

鳴

拾 シナカトリキナノフシ原飛ワタリ<sup>ル</sup>鳴カ<sup>ノ</sup>羽音ノ面白キ哉

鳩

「17ウ

万代 サイタツママタウラワカシ三吉野、霞カクレ<sup>ニ</sup>雉子鳴也

堀 ヤカタヲノ鷹手ニスヘテ朝タテハ交野、原<sup>ニ</sup>雉子鳴也

好忠 春日野、若草山ニ<sup>ニ</sup>タツ雉ノ今朝ノ羽音<sup>ニ</sup>目ヲサマシツ、

朝野ハ淡路ニ有

鷹

今コソハ思アハスレ雉子鳴ヲチノ高根ハ鷹ノミネカハ

堀 吹ワタスヒラノフ、キハサムクトモ日ツキノ御カリセテヤママヤハ

六帖 須磨ノ浦ノ秋萩シノキ駒トメテ小鷹狩タニセテヤ帰ラン

庭鳥

堀 都ニテカレニシ人モ庭鳥ノヒナノ空ニハ恋シカリケリ

同 暁ニナリニケラシナ時鳥ユフツケ鳥ト共<sup>ニ</sup>鳴也

雀

「18オ

雀ノ子ライヌキカニカシタルヲフセコノウチニコメタリツル物

ヲトテイト口惜ト思ヘリコノキタルヲトナ例ノ心ナシノツネニ

カ、ルワサシテサイナマル、コソウケレイツカタヘマカリヌランイ

トヲカシウカウくナリツル物ヲ鳥ナムトモコソ見レ

是ハ源氏ノワラハヤミシテ北山ヘマシナハセニヲハシタリ

シ時若紫ノ上ヲ始テ見給シ事也雀ノ子ヲニカシテ

ワヒタルヲサナキ人ハ紫ノ上也

楊寶黃雀<sup>ヤウホウクワノシヤウ</sup>

記云 後漢楊寶十歲時<sup>コカシヤウホウ</sup>花山<sup>セイトキ</sup>ニ行テ黃雀ノキスヲカウ

フリ<sup>ロウキ</sup>螻蛄ノタメニ被損トスルヲ見ル楊寶是ヲアハレミテ

箱ノ内ニヲキテ黃雀ヲトリテ是ヲ治ス十余日ヲ経テ

病イエテ朝<sup>ニ</sup>去テタ<sup>ニ</sup>来ル變シテ黃衣ノ少人トナル玉

「18ウ

環一双ヲアタエテコノ環ヲ持セハ子孫世ヲカサネテ

三公タラントイヘリ

銜書表周瑞

註云 周武王時有<sup>セキシヤク</sup>赤雀<sup>フクシヤク</sup>銜書<sup>イタル</sup>至<sup>コニ</sup>戸也<sup>私云文ニ雀ノ寄合尤</sup>

註云 嘉賓ハ雀ノ名也<sup>アツマル</sup>嘉賓集<sup>ケウリヤニ</sup>二杏梁<sup>一</sup>

盧<sup>ロ</sup>家蘭室<sup>カランシカラモハ、スウツハット</sup>杏<sup>カヒン</sup>為梁

ネヤノ上ニ雀ノ聲ノキコユナル出立カタニ夜ヤナリヌラン

鶯

ツハメクル時ニナリヌト鷹カネハ古郷思ツ、雲カクレユク  
ツハクラメハツカノ雲ニ鳴ナルハコシチヲコフルネニヤ有ラン  
零陵山上有石燕雨降即飛晴有  
太平御覽云春秋蓮計之極光

「19オ

星散為燕 太水有燕 生雀 梁燕双栖 文集

伯夢鳥トモカケリ

鵲

秋ノ野、尾花カ末ニ鳴モスノ聲キク覧カ、タキイワキモ  
春サレハモスノ草クキ見ヘストモ我ヤ見ヤラン君カアタリヲ

鳥

夏ノ夜ノコモチ鳥ノサカソカシ夜フカク鳴テ君ヲヤリツル  
山鳥カシラハシロク成ニケリ我カヘルヘキ時ヤキヌラン  
事書云熊野、音ナシ川ホトリニ頭ノシロキ鳥ノ侍ケレハヨメル

山鳥

ヒルハキテヨルハワカル、山鳥ノ影ミル時ソネハナカレケル  
山鳥ノホロ／＼ト鳴聲キケハ父ニモアラス母ニモアラス

「19ウ

都鳥

メツラシク鳴ワタルカナ都鳥イツレノ浦二年ヲヘヌラン  
舟木ヲフホリエノ川ノ都鳥

鶯 鵲ニ木ヲメクルト付事此心也

月明星稀 鳥鵲南飛 繞樹工逆  
鳥鵲橋頭紅葉尽 二星ノ影前秋風冷  
分光渡鵲鏡 流影ニ入蛾眉

カサ、キノワタセル橋ニラク霜ノ白ヲ見レハ夜ソフケニケル

山ノ方ハ霞ヘタテ、サムキ汀ニタテル鵲ノスカタモ所カラニ  
イトヲカシウミユルニ宇治橋ノナカ／＼ト見ワタサル、ニ小  
柴ツミ舟ノユキチカヒタルナトホノカニテ見ナレヌコト  
ノミトリアツメタル所ナレハ見給フタヒコトニナラソノ

「20オ

カミノ事モタ、イマノ心チシテ是ハ勾兵部卿ノ宮ノ三ノ君ニ  
アヒ 所ノ詞也

雲雀

ヒハリアカル春ヘトサラニ成ヌレハ都モ見ヘス霞タナヒク  
ヒサキヲフルサハヘノ茅原冬カレテヒハリノトコソアラハレニケル

鶯

鶯ノスムツクハノ山ノモハキヘノトアリ  
寒鶯嚇鷗 高嶺深山 嶺山寄合也

鷄

鷄人曉唱 聲驚明王之眠 鳧寒入水鷄寒登木  
鳥巢事

大内ヨリ人ノ家ニ侍ケル紅梅ヲマイラセヨトラホセ侍ケルニ鶯ノ

「20ウ

巢クキテ侍ケレハ家ノ有主ノ女マツカクソ奏セサセケル

勅ナレハイトモカシコシ鶯ノ宿ハト、ハ、イカ、コタエム

奏セサセケレハメサスナリニケリ

文撰 越鳥巢南枝

獸部

馬

拾二 相坂ノ関ノ岩カトフミナラシ山タチイツルキリハラノ駒

万 イモカリト馬ニクラヲキキコマ山ウチコエクレハ紅葉チリツ、

牛

万十六 ワキモコカヒタヒニヲフル双六ノコトキノ牛ノクラノミノカサ

ワキツツウエニヲラフンシヤ  
蝸牛角上争何事

鹿

「21オ

五月山木ノ下ヤミニトモス火ハ鹿ノタチトノシルヘナリケリ

虎

万 虎ニノリフルヤヲコエテ青洲ニタツトリテコムツルキ太刀カモ

不破関ニ虎ノ寄合有可付歟又富士ヲ付事有

六帖 人妻ハ森力社カ唐国ノ虎フス野ヘカネテ心ミム

猿 夜雨 梯 水月 月鳴 江頭

ハエンヒトサヒヨス フヤツ  
巴猿一葉倚ニ船於明月峽之辺一

テイキ オハニワムカウエンノコエ  
梯危斜踏峽猿聲

熊 熊ニ釣翁 占ナント可付事

呂望非熊

シラフツワハツ  
周文王茅石ト云所ニ狩シ給ニ今日ノ狩ニハ 何ヲカウヘキトウ

ラナハセ給ニ得ヘキ物ハ熊ニモアラス罷ニモアラス虎ニモアラ

ス賢人ヲ得ヘシトウラナヒケリ文王渭水ノホトリニユキ

「21ウ

テ太公望ヲ得テ車ニノセテカヘリ給ヌサレハ熊ニ釣占

虎ニモツクヘシ アラキ月ノ輪 空木

猪

拾 牛カリキノ石ヲフクミテカミコシハキサノキノコソヲトラサリケレ

鼠 付蝙蝠

拾 ハヒタカノヲキエニセムトカマヘタルヲシアユカヌナ鼠トルヘク

私云哥ノ心ハネスミトラムトシテヲシヲアケタルニ其ヲ

シウコカスナ鼠トラムトスルニトヨメリアユカスナトハ

ヲシウコカスナト也

良註 八年鼠化白蝙蝠 リトウフツクカクシサル マウラヲ  
里洞深藏避ニ網羅一

六十八 北山ニ鼠ノホクラ有

泉式部 浦サヒテ鳥タニスヌマ嶋ナレハコノカハホリソトヒガケリケル

「22オ

鼯

万三 ムサ、ヒノ梢モトム足引ノ山ノサツヲニアヒニケルカナ

キコセイサハツツシ  
飢餓性躁忽々乳 老鶴心閑緩々眠

狐

古塚狐之假大尾成長紅裳

私云狐ニハ紅ノモト可付也

林ノ鼠山ノ狐長醉飽 狐何幸豚何事

狐假神龍食豚画

夜モアケハキツニハメナテクタカケノマタキニナキテセナヲヤリツル

犬

奇犬吠花聲流ニ紅桃之浦

菟

江南石上有老菟喫竹飲泉生紫毛

白氏文集

伊駒山木立モ見ヘスチリミタレ雪ノ菟馬朝樂毛

魚類部

魚 付貝

泊瀬川ノカミツセニ鵜ヲハヒタシシモツセニ鵜ヲハヒタシカミツセノ

アユヲクハシヌ

ハヤ人ノセトノイハホモ鮎ハシル吉野、瀧ニシル人ナリケリ

殿上人ノアマタサフ라우西ノ河ヨリタテマツレルアユヲ御マエニ

テウシテチカキ河ノイシフシヤウノセウエヲシ給西河

ハカツラ川也イシフシハ魚ノ名也

鯛

水ノ江ノ浦嶋ノ子カ、ツホツリ鯛ツリカネテ七日マテ家ニモコス

「23オ

伊勢ノアマノ朝ナタナニカツクテフアハビノ貝ノカタ思シテ

慕風抄下 雑部上

金

万八

万長

スハラキノ御代サカエントアツマナルミチノク山ニ金花サク

鳥カナクアツマノ国ノミチノクノ小田ナル山ニ金アリキト云々

金ニ可付物吉野峯金峯山トテ当山ノ峯ニ金有

菊コレハ詩金菊ト作レリ 金精九日開ト作レリ

荳蔻卷

金

蓮ノ花サキミタレタル露キラ／＼トシテ玉ト見ヘタリト云々

後

釵

風吹ハ荷ノウキ葉ニ玉コエテス、シク成ヌ日クラシノ聲

アサチ原玉マク葛ノウラ風ノウラカナシカル秋ハキニケリ

四万

真木タチル不破山コエテコマ釵

不破ノ関ニ釵寄合 上又 メツラシ

釵太刀身ニトリソフト夢ニ見ツナニナサトシツ君ニアハムカモ

帯

万七

大君ノ三笠ノ山ノヲヒニセル細谷川ノ音ノサヤケサ

古

マカネフクキヒノ中山帯セルホソ谷川ノ音ノサヤケサ

山腰<sup>サシヨウ</sup>婦<sup>メ</sup>雁<sup>カシマ</sup>斜<sup>カシマ</sup>牽<sup>ヒキ</sup>帶<sup>オビ</sup>

「24オ

笠

古

青柳ヲカタ糸ニシテ鶯ノヌウテフカサハ梅ノ花カサ

堀

ミソレフル小田ノ荒田ニエクツメハ誰カハキセムスケノ小笠ヲ

扇

万九

トコシエニ夏冬ユケヤカハ衣扇ハナタス山ニスム人

是ハ仙人ノヨメル扇ニカハ衣ヲ付ハ此哥也

能宣

君カ行舟路ニソフル扇ニハ心ニカナフ風ソ吹ケル

ス、シサハイキノ松原マサルトモソフル扇ノ風ナワスレソ

天ノ川河邊ス、シキ七夕<sup>ニ</sup>扇ノ風ヲナヲヤカサマシ

カミハ扇ナトヲヒロケタルヤウニテユラ／＼トタウメカ、リテ

カホイトアカクナシテタテリ是ハ源氏ノ北山ニテ若紫ノ

上ヲミソメ給シ時ノ紫ノ上ノヲサナスカタヲカケル詞也

「24ウ

錦

万十

粕錦ヒモトカヘシ<sup>ヒコホシ</sup>天人ノツマヨフ<sup>トフ</sup>ヨヒソ我モシノハム

拾

湖ニ秋ノ山邊ヲウツシテハハタハリヒロキ錦トソミル

竹生嶋ニマイリケル時紅葉ノ氣ノ水ニウツリテ侍ケレ

ハヨメル哥也

錦寄合事

古郷

朱買臣<sup>シバイン</sup>ト云人錦ヲキテカヘル

江

蜀国<sup>シヨクコク</sup>ニハ江ノ水ニ錦ヲアラフ也

魚

錦ヲ魚モテアラフ本説アリ

相思

錦<sup>シキ</sup>ノ文<sup>モン</sup>ニ相思<sup>アイワモウ</sup>ノ字ヲ、リタル事也

梯

日前 錦木ニハ紅葉ヲ可付

布

「25オ

古十七

タチヌハヌキヌキシ人モナキ物ヲナニ山姫ノ布サラスラム

是大和ノ龍門ノ瀧ニテヨメル也

主ナクテサラセル布ヲ七夕<sup>ニ</sup>我心トヤ今日ハカサマシ

朱雀院布引ノ瀧御覽セシ時七月七日人々ニ哥ヨマセ

サセ給ケルニヨメル哥也

錦木ハ立ナカラコソヲチニケレケフノホソ布ムネアハスシテ<sup>シトヤ</sup>

千日<sup>ツカ</sup>ニタテル錦木是也

綴

唐衣立田ノ山<sup>ニ</sup>アヤシクモツ、リサセテフキリ／＼スナク

古

秋風ニホコロヒヌラシ藤ハカマツ、リサセテフキリ／＼スナク

藤衣

同

藤衣ハツル、糸ハワヒ人ノ涙ノ玉ノヲトソ成ヌル

「25ウ

父<sup>ニ</sup>別テヨメル哥也藤衣ハ眼トヲホクヨメリ又糸ナラヌ哥モアリ

後十六 伊勢ノ海ニ塩ヤクアマノ藤衣ナルトハスレトアハヌ君哉

擣衣ニ寄合事 團 夢驚古集調也 鴈音月下

旅人ヲ待 蘇武妻擣衣事

誰家思婦秋擣衣ツレカヲシノフカキツ コロシ

万二 ケ衣ヲ春雪マチテミユキセシ宇田ノ大野ハヲホ、ヘシカモ

萬 足玉モ手玉モユラニヲル機ヲ君カミケシニヌヒアヘムカモ

御衣トカキテミケシトヨメリ

後拾 カキリアレハ天ノハ衣ヌキカヘテヲリソワツラフ雲ノ機カハシ

鐘

万四 皆人ヲネヨトノ鐘ハウツナレト君ヲシ思ヘハキネカテニカモ

明石巻 鐘ノ音松吹風ニヒ、キアヒテ物カナシ

「26オ

是明石ノ岡邊ノ宿ニ住給シ時

笛

堀 見シ宿ノ庭ハ浅茅ニアレニケリ隣ノ笛ノ音斗シテ

笛ニ隣ヲ付事 文選思賤也

隣人ノ吹笛者聲寥亮リンシンノフクフツモノコエヨウラウラウ

御法巻 百千鳥ノサヘツリモ笛ノ音ヲトラシトアラソフ心チシテ

私云双調ノ調子鶯ノサヘツリト云事笛ニ有此故也

琴

万七 ヒサニフス玉ノ緒コトノコトナクハイトカクハカリ我コヒムカモ

明石巻 久手モフレ給ハヌ箏ヲ袋ヨリ取イタシ給テカキナラシ

給テ 私云明石ニ箏尤寄合也

拾八 松風ノ音ニミタル、コトノネヲヒケハ子日ノ心チコソスレ

梧桐日本一面 対馬結石殊枝

車

堀 川コシノ柴ツミ車イカ、スル氷ノクサヒ冬ハタヘセシ

私云 氷ノクサヒトイフ詞尤メツラシ車トナクテ氷ノ

クサヒトヨメリ

後六 岩間ニハ氷ノクサヒウチテケリ玉井ノ水モイマハモリコス

車ノ寄合此哥ヲ勸侍也

桐壺 手車ノ宣公同給ラセ給テ

是ハ桐壺ノ更衣病ニヨリテ宮ノウチヲ出給シ時輦ノ宣公

ヲカフ、リ給シトコロノ事輦ノ字ニ手車ト云ヨミ侍也

三車事

以前ノスル所ノ哥思ノ字牛車ハ法花三車ノ心也最三車ト云

「27オ

句アラム時法花心ナクテハ難儀也

モロトモニ三ノ車ニノリシカト我ハ一味ノ雨ニヌレニキ

此哥事書云右大臣ノ家ノ女房車三ニ相乗テ菩薩講ニ

マイリ給ケルトカケリ其上下句ニ一味ノ雨トヨメリ猶モ

法花ノ心ノカレカタキカ但句ノ作様ニヨルヘシ先年三車

トシタル難句ノ侍シニナル神ノ雲ニト、ロクトツケ侍シカハ

「26ウ

一座逸興ノ沙汰有キ轟コノ字ト、ロクトヨメル故也猶

勘見ニ源氏ノヲホロ月夜ノ内侍ノヤミニニアヒテ花ノ会ノ

後宴スキテ明行<sup>ニ</sup>アリアケノ人イテヤシヌランヲホツカ

ナクテ惟光ヲツケテ見給<sup>ニ</sup>ケシウハアラヌケハヒトモシテ

車三ハンヘルトキコユサスレハ三ノ車トアランニハヲホロ月

夜ノ明トモ付花ノ宴ナラストモ可付歟能々可思案

車浮橋ヲ可付事

― 27ウ

足ヨハキ車ナトハヲシミシカレアハレケナルモ有

浮橋ノモトナトニモコノマシフ立サマヨフヨキ車ヲホ

カリケリ 是ハ大原野、行幸<sup>ニ</sup>横川ノ浮橋ノモトノ

事也カホル中将神無月<sup>ニ</sup>成テ五六日ノホトニ内<sup>ニ</sup>ヘマウ

テ給フアシロノ車ニテカトリノナヲシサシヌキハセテコト

サラヒキツクロヒ給ヘリ

船

旅ニシテ物コヒシキニ山モトノアケノソホ舟ヲキニコクミユ

アケノソホ舟トハ昔ハ船ニ<sup>ニ</sup>丹ヲヌリケルナリ今モ鳥羽

舟ニハアリ

ナミタ川世ヲ浮舟ノナキサマハ思ヒタエセテツナテヒクラシ

鏡

ハシ鷹ノ野守ノカ、ミエテシカナ思ヒ思ハスヨソナカラ見ム

― 28オ

後八

年コトニ白カノ数ヲマスカ、ミ見ルニソ雪ノ友ハシリヌル

船中鈔 五月五日日ノ午ナル時

枕

シキタエノ枕セシ人コト、エヤ其枕ニハ苔ムシニケリ

アサネカミ我カホツラシウツクシキ人ノ手枕フレテシ物ヲ

蓆

アサテホスアツマヲトメカ、ヤムシロシキシノヒテモスクル比哉

櫛

伊勢物語

葦ノ屋ノナタノ塩ヤキイトマナミツケノ小クシモサ、スキニケリ  
昔男撰津国ムハラノ郡葦屋ノ里<sup>ニ</sup>ナレルヨシニテ行テ

― 28ウ

住ケリトアリ

櫛ニ竹ヲ可付事

彦火火出見尊海畔ニテ釣針ヲウシナヒ給テ求給フ

時老翁アリテモツトコロノ櫛ヲナケシカハ一村ノ竹ト

ナル彼ノ竹ニテ籠ヲクミテミコヲ入タテマツリ海中ニ

シツメタテマツル即龍宮ニイタリテ豊玉姫<sup>ニ</sup>契給

テ鵜カヤフキアハセスノ御子ヲ誕生アリ委細日本

記<sup>(イ)</sup>ニアリト云々

薫

右近ノ陣ノ御カハ水ノホトリニナスラヘテ西ノワタ殿ノ下

ヨリイツル川<sup>ニ</sup>チカクウツマセ給ヘルヲ惟光ノ宰相ノ子ノ



兵衛尉堀出テマイレリ

「29オ

薫ヲ土ニウツム事梅カヘノ巻ニアリ

薫ノ寄合 君カ為 梅 朽簾方アリ

履

シナノチハ今ノハリ道カリ草ニアシフマシムナクツハケワカセ

ハリ道トハアタラシクキリハラヒタル道也草木ノカリク

キヲカリハネト云也

履ニ 一卷トモ文トモ可付事

瓜田不<sup>レ</sup>納履 梨下不<sup>レ</sup>整冠

履ニ 鬼ヲ付事

王喬仙術ヲ得テ其履双鬼成飛

冠

鵲<sup>カシカウソ</sup>竹漢高祖竹ノ皮ヲモテ冠ヲツクル

「29ウ

竹始テヲヒタル皮ヲモテツクレリ今ノ鵲尾冠也 鄧氏冠也

カシカウソノウツクノヒシタテヘン<sup>キタテノフケンウツ</sup>感彼雲外鵲群飛下<sup>クムカンアノイッ</sup>翻々来添硯中水去吸巖底泉<sup>サテム</sup>

尾露ト云 池

万ニ 家ニテハ筭ニモル飯ヲ草枕旅ニシアレハ椎ノ葉ニモル

家ツトニモテルカレ飯ホロ<sup>ニイ</sup>ト草ヒキ結フ枕タニナシ

拾 シナテルヤ片岡山ノ飯ニウエテフセル旅人アハレヲヤナシ<sup>家イ</sup>

薄雲卷 カ、ル所ナントカヤウニ立トマリ給フヤリ<sup>キイ</sup>アレハハカナ

キ御クタ物コハキヒナトキコシメス時モアリ是ハ

明石ノ上ノヲハス山里ニテノ事

酒

味酒ヲ三輪ノハウリカイワウ杉手フレシツミカ君ニアヒカタキ

私云酒ヲミキト云事酒ヲフクシヌル身ニハ悪風

「30オ

三寸ヨラス仍ミキト云ヘリ寸ノ字ヲキトヨム也

馬ノイクキト云ハ寸ノ字也三寸ノ義分明也

薬

捨六 カメ山ニイク薬ノミ有ケレハト、メンカタモナキ別哉

古六 ヲトハノ瀧 音ニキク 老スシナスノクスリ哉君カ八千トセ<sup>ヲ</sup>

八雲抄 紅雪 雲ニホルヲ楽 蓬萊嶋承 車前草

同雑部下

巖

万十九 ナテシコハ秋サク物ヲ君カ家ノ雪ノ巖ニサキニケルカナ<sup>イワラ</sup>

此哥ハ繩広カ家ノ酒宴ニ瞿麦ノ作花雪ニタテル

ヲヨムト注尺云々

同 雪ノ嶋巖ニヲフル瞿麦ハ千代ニサキタル君カ、サシニ

「30ウ

沙巖 銀河沙漲三千界<sup>カイ</sup>

白雪ノ所モワカスフリシケハ巖ニモサク花カトソミル

志賀山越ニヨメル

人丸集 ネカハクハ桜ノ本ニウツモレテ花散カ、ル土トナリナム

万十 吾門ノ片山椿マコトナレ我手フレナク土ニヲケンカモ

哀傷

万人丸 草枕旅ノヤトリニ誰妻カ国ワスレタル家マタマ、二本ニ

天ノ香具山<sup>ニ</sup>死セルカハネノ有ヲ見テカナシミノアマリニヨメル

万十六 イキシニノ二ノ海ヲトヒキテ塩ヒノ山ヲシノヒツルカナ

海ハ塩ヒテ山ハカレスレ

同 我命モトキハナラヌカ昔ニテキサノ小川ヲユキテミムタメ

是ハ帥大伴心歌五卷月也

「31オ

キサノ小川メツラシキニヨテ此哥ヲシルセリ

キサノ小川吉野<sup>ニ</sup>有歟可尋

万七 <sup>ワケルヲ</sup>度日之鳥旦<sup>トリアタニト</sup>飛而過隙之駒<sup>スルヒマ</sup>夕走<sup>コマニシテ</sup>

拾八 ナカムルニ物思フコトノナクサムハ月ハウキ世ノ外ヨリヤユク

女ニヲクレテ侍ケル比月ヲ見テト事書<sup>ニ</sup>見ヘタリ

後拾 モロトモニナカメシ人モ我シナキ宿ニハヒトリ月ヤスムラム

十五 露ノ身ノキエモハテナハ夏草ノ葉ハイカニシテアラムトスラム

此哥ハ人ノムスメノ母ノ本ヘマカリケルニヲモキ病ヲシテ

カクレムトシケル時カキヲキテ身マカリケルト事書<sup>ニ</sup>有

新勅十八 霜カレノ蓬ノ門ニサシコモリ今日ノ日影ハ見ヌソカナシキ

昔見シ松ノ梢ハソナカラムタラノ月ヲサシテケルカナ

桐壺 雲ノ上モ涙ニクモル秋ノ月イカテスムランアサチフノヤト

「31ウ

トヲホシメシヤリツ、灯ヲカ、ケツクシテヲハシマス<sup>ニ</sup>兵衛

ツカサノ殿井申ノ聲キコユルハウシニナリヌヘシ人目ヲ

ヲホシ夜ノホトニ入セ給テシマトロマセ給事カタシイタ屋ノ

カタツラニ御堂立テヲコナヘル尼ノスマキイトアハレ

ナリ御アカシノ光モ影ホノカニテ見ユ此尼ニハ女ヒトリ

カナク聲シテトノカタニ法師ニ三人ハカリ物カタリシツ、

ワサトコエタテヌ念仏ヲソスル寺々ノ僧モヲコナヒ

ハテ、イトシメヤカニナリ清水寺ノ坊先ヲホクミヘテ

人ノケハヒモヲホカリケリ

私云是夕顔ノ君ウセ給シヲ東山ナル所<sup>ニ</sup>ヲキテ源氏

ノハカナキカラタナトモ今一度見ムトテヲハシタリシ

夜ノ事也聲タテヌ念仏事六条ノ大臣殿ノ物語有

「32オ

シハ此念仏葬礼ノ記録<sup>ニ</sup>アリ紫式部カ彼記録<sup>ニ</sup>テ

見侍ケルコトヨ哥ノ次ニ雑話有也カキヲキタル人ノ

語り侍シ是今日ヲナシ夢ナリ

南無阿弥陀佛此折物ヲアサケラン人女<sup>ニ</sup>十念

君ハ西ノ妻戸ノカウランニヲシカ、リテ霜カレノ前栽

見給フホト也風アラ、カニ吹テ時雨サトシタルホトモ涙モ

アラソフ心チシテ雨トヤナリ雲トヤナリニケン今シラス

トウチヒトリカコチテツラツヘツキ給ヘル御サマ女ニテ

ハナクナラン魂カナラストマリナムカシト色メカシキ心チ  
ウチマホラレツ、

私云 成<sup>ナリ</sup>雨<sup>アメ</sup>成<sup>ナル</sup>雲<sup>クモ</sup>ト云本説ハ昔楚王巫陽臺事

夢段ニアリ委細

名所山部 小野山

門田ノイネカルトテ所ニツキタル物マナヒシツ、ワカキ女トモ  
哥ウタヒ興シアヘリ

浮舟ノ宇治ヨリ小野ニスミウツリテ後ハ手習ノ君ト云ヘリ  
月ナムトノアカキ夜ハ箒ナトヲヒ給フ昔見シ都鳥ニ

ニタル事ナシ何事ニツケテモ世ノ中ニアラス所ハ是ヤラン  
是ハ手習ノ君ワカキ女トモヲツケタルヲ見テ昔ノ都<sup>ニ</sup>テ  
見シ人ニハ似ヌト云ヘリ都鳥ニソヘテ云ヘリ小将手習ノ  
君ニ心ヲカケテ鷹狩ノツイテナトニハヲトツレケルト  
物語ニ見ヘタリ

宇治 横川 泊瀬 小野寄合也

私云 比叡 室戸 是モ寄合也

秋ノ山ノ紅葉ヲヌサトタムクレハスム我サヘハ旅心チスル<sup>貫之</sup>

事書ニ云小野ト云所ニ住ケル時紅葉ヲ見テヨメリ

小塩山 若一狭

世ニトヨス豊ノアカリヲヨソニシテ小塩ノ山ノ御幸ヲソミル

「 33 オ

大原ヤ小塩ノ山ノヒメコ松ハヤコタカ、レ千代ノ影見ム<sup>千年歌</sup>

鞍馬山

後拾五

スミナル、都ノ月ノサヤケキニ何カクラマノ山ハコヒシキ

小倉山

夕陽暮十三夜ノ月ハナヤカニサシ出タレハ小倉ノ山モタトルマシクテ

春日山 大和

万六長

真葛原春日ノ山ハウチナヒキ春サリユケハ山上<sup>ニ</sup>霞タナヒキ

拾七

二葉ヨリタノモシキカナ春日山木タカキ松ノタネト思ヘハ

芳野山 同

詞

三吉野、キサ山陰ニタテル松イク秋風ニソナレキツラン

万

山ノハニイツモノ子<sup>カ</sup>ラハ霧ナレヤ吉野、山ノ峯ニタナヒク

此哥ハ出雲ノ国ノ女ヲ吉野ニ葬スルヲ見テ人丸ヨメル也

香具山 同

舒第一

カコ山ノ瀧ノコホリシトケナクニ吉野、峯ハ雪キエニケリ

イツシカモ神サヒケルカ香具山ノムスキカ本ニ苔ムスマテニ

ムスキハ一説ニハタチツクリタルホコ也一説ニハ生杉也

生女生子ノ義也

葛城山

日本記

ヨキ事ヲ万代カケテ見ツル哉葛城山ノ今日ノ御狩ニ

カツラキヤトヨラノ寺ノ西ナルカエノハヒニシラタマシツクヤ

「 34 オ

伊駒山川内

万六長 イコマ山遠日カクレニ萩ノ枝ヲシカラムヒタシサホ鹿ノナク  
伊勢物 昨日今日雲ノ立マフイコマ山花ノ林ヲウシトナリケリ

妹背山

万二 アサ衣キレハナツカシ紀伊国ノイモセノ山ニ苧マケワキモコ  
同 セノ山ニタ、ニムカヘルイモノ山コトユルスカモウキ橋ワタス  
古 ナカレテハイモセノ山ノ中ニヲツル吉野、川ノヨシヤ世ノ中

大江山

万十三 丹波路ノ大江ノ山ノサネカツラタエテ心ヲ我ハ思ハス

金九 大江山イク野、道ノ遠ケレハマタフミモ見スアマノ橋ハシタテ

有乳山

万人丸 矢田ノ野、アサチ色ツクアラチ山峯ノ初雪サムクフルラシ

「34ウ

金 アラチ山時雨フルラシ矢田野ナル百枝ノハシモ紅葉シニケリ

足柄山 駿河

万長 トフサタテアシカラ山ニ舟木キリ木ニキリカヘツアタラ舟木ヲ  
アシカラノ八重山コエテ今シナハ誰ヲカ君トミツ、シノハム

恋セハヤセヌヘシ御神 関有 竹ノ下

富士同

若紫巻 フシノネニフリラク雪ハ六月ノモチニキエテハ其日フリケリ  
富士ノ山ナニカシノタケナトカタリキコエサスル人有

是ハ源氏ノ北山ニテ人ノソヲノニ侍海山ナトヲ御覽シタ

ラハト御トモノ人ニカタリイタシタル詞也

カクヤ姫ノ鏡ヲ御門ノムネニアテ御歎アリシ思ヒノ畑ツクリ  
タルヲ富士ヘカヘサレタルト云々不死薬カクヤ姫ノ、コシヲキ

「35オ

タル壺ヲ天ノチカキ山ナレハ十一天ノ神女ニ見セントテ富士  
ノイタ、キニテヤキアケラレタル煙イマタノコレリ  
玉虎 都良香富士ノ記ニ虎ニ似タル石有ト見ヘタリ

同記ニ仙人ノスミカトヲホヘテ玉簾ノカタチノコレリト見ヘタリ

萬代ノ数ニヤトランアサマナルミタラシ川ノソコニワク玉

此哥富士浅間大菩薩ヲアサマトヨメル也信乃ノ浅間駿川浅

間同字也兼盛カ駿河国ニテヨム哥ト家ノ集ニ見ヘタリ

御手ラシ川珍也

箱根山

足柄ノ箱根ノ山ニ粟マキテミトハナレルヲアハナクハアヤシ

高野山

我アラハヨモキエハテシ高野山タカキ御法ノ法ノ灯

「35ウ

此哥ハ或上人ノ夢ニ此山ノ明神ト名ノリテツケ給ケルト云々

天野、大明神也

志賀

六帖 サ、浪ヤ志賀ノ山路ノツ、ラヲリクル人ナクテアレヤハツラム

古 結手ノシツクニニコル山ノキノアカテモ人ニ別ヌルカナ

志賀ノ山越ニテ岩井ノモトニテ物イヒケル人ノ別ケル

ヨリヨメル

龍田山 大和

新吉七

秋サレハ狩人コユル立田山立テモ居テモ物ヲシソ思フ

古

大山ヨリヲチクル水ノ色ミテソ秋ハカキリト思レハスル

事書ニ云寛平御時古哥タテマツレト仰ラレケレハ

立田川紅葉、ナカル、トカキテ其同心ヲヨメル

「36オ

拾

ヌス人ノ立田ノ山ニ入ニケリヲナシカサシノ名ニヤケカレム

御室山

スヘラキハ神ニモマセハアマ雲ノイカツチノ上ニイホリスルカモ

此雷ハ三室山也日本記第十三云雄略天皇三室山ニ

入給時 少子部連螺蛾ヲホセテ雷ヲ取給ヘリ此雷光

ヒラメキセシ程ニ 天皇ヲソレ給テ神トアカメ給フソレヨ

リ勅定有テ三室ヲ雪山ト云ク

高円山

付野邊大和

万十

キ、スナク高円山ノ桜花チリナカラフル見ル人モカナ

同九

高円ノ野ヘノ秋萩コノ比ノ暁ノ露ニサキニケムカモ

秋野 常夏

ムサ、ヒ 高円山ノ寄合也

三輪

「36ウ

古十八

我イホハミワノ山本恋シクハ訪キマセ杉タテル門

泊瀬山 同

万三 コモリエノハツセノ山ノ山キハニイサヨフ雲ハイモニカモアラム

私云カクラクノハツセコモリエノカクレヌノハツセナト古點ニハ

點セリ仙覺律師カ新點ニハコモリソト點セリ

金

泊瀬山雲井ニ花ノサキヌレハ天ノ川浪タツカトソ見ル

玉臺卷

二本ノ杉ノ木立ヲタツネスハ古川野邊ニ君ヲ見マシヤ

同

ハツセ河ハヤクノ事ハシラネトモ今日ノアフセニ身サヘナカレヌ

此贈答ハ玉カツラノ八幡ヨリ長谷寺ヘマウテタルニ右近カ尋

合タル所也哥ハ河トアレトモタヨリアレハ載之

秋風谷ヨリ吹ノホリテイトサムキニ

是ハ玉カツラノ參籠シタル時ノ哥也

「37オ

音羽山

古四

秋風ノ吹ニシ日ヨリ音羽山峯ノ梢モ色ツキニケリ

会坂山 近江

古十九

君カ代ニ相坂山ノ岩清水木カクレタリト思ヒケルカナ

堀吉

鳴ナルハ相坂山ノクツハ虫駒ムカヘスル人カキクラン

六帖

相坂ノ山ノ峯ニテ鳴聲ハマシラノミコソアハレナリケリ

比良山 同

万九

サ、浪ヤヒラノ山風海吹ハツリスルアマノ袖カヘルミユ

雲ハラフヒラ山風ニスム月ヤコホリカサヌル真野、ウラ浪

万九

ヒラ山ヲニホハス紅葉タラリキテ今夜カサシツチラハチルトモ

鏡山

行月ノカ、ミノ山ヤフケヌラン音スミワタルセタノ長橋

「37ウ

卯ノ花ノチリクル夏ニナリヌレハカ、ミノ山ハクモラサリケリ

伊吹山

後  
カクトタニエヤハイフキノサシモ草サシモシラシナモユル思ヲ

手向山

万十三  
ヨソニノミ君ヲアヒミテユフタ、ミ手向ノ山ヲアカスコエナム

有間山

後十二  
アリマ山猪名ノサ、ハラ風吹ハイテソヨ人ヲワスレヤハスル  
堀堀古  
シナカ鳥キナノ葉山ニ旅ネシテ夜ノヒカタニ目ヲサマシツ、

神山

狭衣  
神山ノ椎柴カクレシノヘハソユフヲモカクル賀茂ノ水カキ

関

川内  
鷺  
足柄  
伊豆  
相坂  
近江

取磨

「38オ

明玉集  
我思フ心モツキヌ行春ヲ鳴テト、メヨ鷺ノ関

後十九  
足柄ノ関ノ山路ヲ行人ハシルモシラヌモウトカラヌカナ

相坂ノ関ノ此方ニ立春ハ音羽ノ山ヤ先カスムラン

忠峯集  
秋風ノ関吹コユル度コトニ聲ウチソフルスマノ浦浪

此花ニ花サキヌラシ関川ノタエスモ見ヨトラレル菊花

寛平菊合ノ哥也此川ハ相坂ノ関川也

杣 泉 槇 大井川

万十一  
宮木ヒク泉ノ杣ニ立民ノヤム時モナク恋ワタルカナ

堀堀  
朝夕ニ雪フリヌレハシカラキノ真木ノ杣山跡タエヌラン

小倉集  
大井河風ノ風ノサムケキニ岩ウツ浪ヲ雪カトソ見ル

標茅野

下野

六帖  
下野ヤシメシチカ原ノサシモ草ヲノカ思ヒニ見ヲヤ、クラム

「38ウ

清水  
只タノメシメチカハラノサシモクサ我世ノ中ニスマムカキリハ

野中

後十七  
船岡ノ野中ニ立ル女郎花ワタサヌ人ハアラシトソ思フ

求塚

万十八  
乙女コカ後ノシルシトツケオクシヲヒカハリオヒテナヒキケラシモ

此所ノ乙女塚ノ因縁ハ大和物語ニ委見ヘタリ

爰萬葉ノ長哥注ヲ見ルニ摂津国葦屋ノホトリニ

住ケル人ノ娘ヲモチタリケルヲ同国菟原ト云所ニ男

有彼女ニ心ヲカケテイヒケリ又和泉国ノ血沼ト云所ニ

男有是モ心ヲカケテイヒケルホトニ互ニアラソヒテ

釵ヲ取弓ヲ引ホトノ事出来ケリ娘はヲミテ我

故人ヲウシナハム事カナシカルヘシトテ生田ノ川ニ身

「39オ

ヲナケテウセヌ此女ヲ収タル塚也

此哥ニテ心得ニモトメ塚コノ中ニヲトメ塚ハ有力櫛ヲ

ウツミコメタリケルカ塚ヨリ生出テ黄楊ト成テ塚ノ  
上ニナヒキタテリト前ノ短哥<sup>ニ</sup>見ヘタリ

求塚 乙女塚ノ異説也

名取川 大井河

後拾五 水上<sup>ニ</sup>紅葉ミタレテ大井河ムラコニ見ユルタキノ白糸

拾五 色々ニ木ノ葉ナカル、大井河下ハカツラノ紅葉トヤ見ム

忠度集 大井河峯ニカスサスウエ松ノ風ニヤセ、ノ浪ハタツラン

家ノ集ニ潤六月<sup>ニ</sup>人々大井川ノウエ松ノ井<sup>本家</sup>ニス、ミニ

マカリテ

桂川

寒方殿 桂川テル月影ノヤトルニハモニスム魚ヲ底ニスミケル<sup>見ヘ</sup>

カツラ川カサシノ花ノ影ミヘシ昨日ノ測ソ今日ハ恋シキ

此哥ハ為政朝臣石清水ノ臨時ノ祭ノ使<sup>ニ</sup>侍ケルト也舞

人ニテ帰テ又ノ日カサシノ花<sup>ニ</sup>ツケテツカハシケル哥也

泉川

万十八 朝コトニキケハハルケシ泉川アサコキシツ、ウタフ舟人

万十六 彦星ノカサシノ玉ノイモコフトミタレニケラシ此川ノ瀬<sup>ニ</sup>

哥ノ面泉川トハナケレトモ本集ノ事書<sup>ニ</sup>泉川ノ邊<sup>ニ</sup>

テ作スト見ヘタリ

長万 南風<sup>ミナナシノカゼニ</sup>ニ雪キエマシテ泉川

賀茂川

拾九 チハヤフルカモノ川邊ノフチナミハカケテワスル、時ノナキカナ<sup>マモナシ</sup>

「40オ

チハヤフル賀茂ノ川瀬ニ駒トメテシハシ水カハ影ヲタニ見ム

音羽川

六帖 音羽河ヲツル玉水シラネトモカハツノ聲ヲトメテキニケリ

拾八 音羽川セキ入テヲトス瀧津セ二人ノ心ノミヘモスルカナ

宇治川

元集 芦間行宇治ノ川浪ナカレテモヒヲノカハネヲミントソ思

カハネハ骸也 此哥近哥ニ

世ニシ経ハ海月ノホネハ見モシテンアシロノヒハヨル方モナシ

ハルノト見ワタサル、空ニ散桜アレハ今ヒラケソムルナト

色ノ二見ユルニ川ソヒ柳ノヨキフシナヒク水カケモヲロ

カニヲカシキヲ<sup>推本卷</sup> 兵部卿ノ宮ナカメイタシ給タル所也

宇治ニ寄合ヘキ物

「40ウ

森

森カトミユル木ノ下ヲウトマシケノワタリヤトミイタルニ

是ハ手習ノ君ヲ横川ノ僧都ノハシメテ見ツケタル

所ノ詞也

狐

同卷 キツネ変化シタルニコソニクシ見アラハサントテヒトリハ今

スコシアユミヨル

是ハヲナシ所也横川ノ僧都ノ弟子ノミアラハサム  
トテヨリタル所也

寺鐘 峯ノ八重桜 柴船

寺ノ鐘ノ聲カスカニキコエ霧イトフカク立ワタリ峯ノ  
八重雲思ヒヤラル 又云小舟トモ柴カリツミ

橋姫巻

村鳥

村鳥ノタチサマヨウ羽風チカクキコヘアタリノ鐘ノ音  
数ノニヒ、ク

是ハ兵部卿ノ宮ノヲホキ君ニハシメテアヒ給シ夜ノ  
明方ノ事也

鶏 山里

同 鶏モイツカタニカアランホノカニヲトナフニ京思ヒヤル

同 山里ノアハレシラル、コエノトリアツメタル朝ホラケカナ

同 鳥ノネモキコエヌ山ト思ヒシニ世ノウキ事ハタツネキニケリ

貴布祢川

今日 イクカノミン 物思ヘハサハノ螢モ我身ヨリアクカレ出ル玉カトソ見ル

此哥和泉式部カ男ニワスラレテ貴船ニマイリテ此哥

ヲヨミタリケレハ明神御返哥

奥山ニタキリテヲツル瀧津瀬ノ玉チルハカリ物ナ思ヒソ

白川

詞花

白川ノ春ノ梢ヲ見ワタセハ松コソ花ノタエ間ナリケレ  
百草ノ花ノ影マテウツシツ、音モカハラヌ白川ノタキ

中川

小町野

中川ニス、ク田芹ノネタキコトコラハレテコソ有ヘカリケレ  
小町集云永香殿ノ宰相君里ニ出タル二人ノアル気色ナ

レハ婦テ中川ニセリアラフ女シテトナン

私云中川ハ顕署ノ哥枕ニ洛西ト見ヘタリ

或義ニハ京極川ト云々

堀川

詞

源ヲサタメテケレハ君カ代ニ二度スメル堀川ノ水

六帖

堀川ノ瀬々ノキクヒニウチワタシアヒテモ人ニ恋ワタルカナ  
御手洗川

拾

コフツクスミタラシ川ノ亀ナレハ法ノ浮木ニアヘルナリケリ  
君カ為ミタラシ川ヲ若水ニムスフヤ千代ノハシメナルラン

新勅

神山ノフモトヲトヨミ御手洗ノ岩ウツ浪ハ万代ノ数  
泊瀬川

万九

ハツセ川タワタリキテワキモコカ家ノ御門ハチカツキニケリ  
飛鳥川

堀

飛鳥川ウキ木ニツモル白雪ノ浪タチクレハタノモシケナシ  
飾川 播州

ワタツ海ノウミニ出タルシカマ川タエン日ニコソ我コヒヤマメ



天川

七タノ天ノ川原ノ岩枕カハシモハテス明ヌ此夜ハ  
千鳥鳴天ノ川原ニ立霧ハ雲トソ見ユル秋ノ夕暮  
天河カヨフ浮木ニコト、ハン紅葉ノ橋ハチルヤチラスヤ

最上川 出羽

古十 最上川ノホレハクタルキナ舟ノキナニハアラス此月ハカリ  
堀 モカミ川ウキネハスレト水鳥ノ下ノ心ハヤスケクモナシ  
家集持 モカミ川スカケセシヨリ心シテマモリカヘセルヤカタヲノ鷹

名取川

名取川セ、ノ埋木アラハレハイカニセムトカアヒミソメケム

玉川 山城 武州二同名アリ

金二 卯花ノサカヌカキネハナケレトモ名ニナカレタル玉川ノ里

「43ウ

堀百 松風ノ音タニ秋ハサヒシキニ衣打ナリ玉川ノサト

思川

後九 思川タエスナカル、水ノアハノウタカタ人ニアハテキエメヤ

松浦川

万五 松浦川河ノ瀬ヒカリアユツルトタ、セルイモカ裳ノスソヌレヌ

玉嶋川

玉嶋ノ此川上ニ家ハアレト君ヲヤサシミアラハサスアリキ

木幡川 山城

「42ウ

拾 コハタ川コハタカイヒシコトノハソ無名ス、カン瀧津モカナ

難波海

拾九 桜花今サカリナリ難波ノ海ヲシテル宮ニキコシメスナヨ

塩海ヲヲシテルトイヒ湖ヲニホテルトイフ

「43ウ

万十五 タラシヒメ御船ハテケン松浦ノ海イモカマツヘキ月日ヘヌヘク

タラシヒメトハ神功皇后ノ御事也御船ハテケントハトメ

ケン也泊ノ字ヲ新點ニハ泊ト點セリ

取磨海

須磨ノ海ツリセシ人モ今日ヨリヤ千年ヲ松ノ枝ニワタルラン

兵部卿親王ハシメテ魚ヲマイリケル時ヨメル哥也

明石浦

堀 浦風ニ浪ヤヨルラン夜モスカラ思ヒアカシノアサカホノ花

春秋ノ花紅葉ノサカリナルヨリハタ、ソコハカトナクシケ

レル影トモナマメカシキニタ、水鶏ノウチタ、キタルハ門

サシテアハレニヲホユ

須磨浦 摂津

「44オ

万三 スマノアマノシホヤキ、ヌノ藤衣間トヲニアレハイマタキナレヌ

六帖 須磨ノ浦ノ秋ハキシノキ駒トメテコタカ狩ヲモセテヤ帰ラン

須磨巻 枕ヲソハタテ、四方ノ嵐ヲキ、給ニ浪タ、コ、モトニ立クル

心チシテ涙ヲツトモヲホヘヌニ枕モウク斗也

海ツラ 山中 茅屋 葦フケル屋 若木ノ花<sup>皆此故也</sup>

船ヨリ御車ニタテマツリカヘルホトニ日ヤウ／＼サシノホリテ  
是ハ明石ノ巻ニモ有トモ車ノ沙汰ハ須磨ノ浦ニテノ事也  
サレハスマノ寄合尤車大切に

ヲキヨリ舟トモノウタヒノ、シリテコキ行チキサキ鳥ノ  
ウカヘルト見ヤラル雁ノツラネテ鳴聲梶ノ音ニマカヘル此  
詞トモハ須磨ノ山中ヨリ源氏ノ海ノ方ヲナカメヤリ給ヘル  
所也

「44ウ

今夜ハ十五夜ナリトヲホシキテ、殿上ノアソヒコヒシク  
月ノカホノミマホラレ給フ綱手引スクルモクチヲシ琴ノ  
音風ニヒ、キテワツカニキコユルニ

私云此詞ハ大弐ノ筑紫ヨリ京ヘノホル時須磨ノ浦ヲ  
繩手ヒカセテ行ニ源氏ノヒキ給フ琴ノネホノカニキコ  
ユレハ五節ノ君ノ船ノウチニテ此浦ヲタ、ヤスキンス  
ラントカナシミ給タル所也

同 同  
箏ノ音ニヒキトメラル、ツナテ縄タユタウ心君シルラメヤ  
驛ノヲサニクシトラスル人モアリケルヲ

須磨ノ驛尤メツラシクシトハ句詩也カキツル事ハナク  
テ詠スル詩也  
須磨ノ浦ノ神社事

「45オ

惠慶法師集云障子ノ絵ニ須磨ノ浦ノカタカキ神ノ社<sup>三</sup>

船ヨリ行人浪ノカ、レハタカセニフシヲカミ御手クラタ  
テマツルヲ

白浪ノ色マテマカウ御手クラヲタカセニウケヨ海ニマス神  
敷津浦

伊勢物語  
住吉ノシキツノ浦ニ旅ネシテ松ノ葉風ニ目ヲサマシツ、  
堀  
雁ナキテ菊ノ花サク秋ハアレト春ノ海邊ニ住吉ノ濱

嵐吹イコマノ山ニ雪ハレテ長井ノ浦ニスメル月カナ

亭生浦 伊勢

六帖  
ヲフノ浦ノ梨ナラハコソ此椎ノナリモナラスモ人ニカタラム

志賀浦

万一  
サ、浪ヤ国ツ御神ノ浦サヒテアレタル都ミレハカナシモ

「45ウ

サ、浪ト云詞カナラス水邊<sup>二</sup>アラスト云一義有天主  
天皇天津宮<sup>二</sup>御座ケル時都ノ北ナル山<sup>二</sup>瑞雲時々タナ  
ヒケケリ天皇アヤシミ給テ勅使ヲタテ、ミセシメ  
給フタツネ行テ見ルホトニ岩堀ニ老翁有其上<sup>二</sup>瑞  
雲タテタリ勅使此山ヲハ何ト申山ソト問ケレハ  
古仙靈堀伏藏蛇樂<sup>三</sup>名実長良山ト答テカ  
キケツ様ニウセ給ヌ是志賀寺ノ縁記<sup>〔44〕</sup>有水邊<sup>二</sup>  
アラサル證拠也

小屋池 摂津

後拾 鷗コソ夜カレニケラシキソノナル小屋ノ池水ウスコホリツ、

勝間田

万六 カツマタノ池ハ我ミル蓮ナシシカイウ人ノヒケノナキコト

「46オ

本集云新思親王カツマタノ池ニアソヒテ婦ニ婦人ニ彼池ノ宜白ノ様ヲカタル婦人タハフレテヨメル也此親王ヒケナカリケレハ

橋

源氏薄雲 夢ノワタリノウキ橋ヲノミウチナカメテサウノ箏ヲ

ヒキヨセテ彼明石ニテサ夜フケタリシネモ

是ハ明石ノ上ノヲハスル桂ノ郷チカキ山里ニテノ事也

新古 古ヲ思ヤリテソ恋ワタルアレタル宿ノ苔ノ岩橋

埋木ニクメチノ橋寄合也 天ノウキ雲 ト、ロキ

勢田ノ中道皆橋寄合也

井

拾 走井ノホトヲシラハヤ相坂ノ関ヒキコユル夕影ノ駒

「46ウ

堀 八重葎シケミカシタニムスフテフヲホロノ清水夏モシラレス

万五 古ヲコフル鳥カモユツル葉ノ三井ノ上ヨリ鳴ワタリユク

註云 ユツル葉ノ三井ハ吉野ニ有

万 山ノ邊ノ御井ヲミカチリ神風ノ伊勢ノ乙女ヲアヒミツルカモ

石清水

古 君カ代ニ相坂山ノ岩清水木カクレタリト思ヒケルカナ

松モ老君モ岩清水行末トヲク仕ヘマツラン 本二

氷

源氏 コホリトケ岩間ノ水ハ行ナヤミ空スム月ノ影ソナカル、

重兼之メツラシク今日白雲ノムラキルハ池ノ氷ヤウスク成ラン

雲ノムラキルメツラシキ詞也鶴ナトノ寄合ニワタルヘシ

夢

「47オ

拾 船チニハ草ノ枕モムスハネハヲキナカラコソ夢ハ見ヘケレ

詞十 百年ハ花ニヤトリテスクシテキ此世ハ蝶ノ夢ニソ有ケル

此哥ハ莊子カ心也夢ニ蝴蝶トナリテ百年ヲ送レリ

莊子カ蝴蝶トナリケルカ夢ノ中ニウツ、ナケレハウツ、ト

思モ夢ニヤアラム莊子ノ法文ニハ百年突然也ト見ヘタリ

黄梁夢事

昔アル旅人道ノホトリノ家ニ立ヨリテヤスメリ又童有テ

アヒヤトリス此童問云客ハ何事ヲカ望客云世事ト

ホシ朝夕ニ是ヲ愁フ童云シハラク此枕ヲシテネフレト

オシフ客彼ノ枕ヲエテイネヌ夢ノ中ニ数十年ノタノシ

ミアテサメヌ又此夢ヲミル程ニ黄梁ノ飯ヲカシケル其

程也黄梁ハキナルアハ也

「47ウ

私云夢ニ粟ヲ不可付ソレモ事ニヨルヘシ粟ト云難句

有時夢ト可付也

南柯夢事

昔或人槐木ノ南ヘサシタル枝ノ下ニネテ夢ニ見ル様大  
槐宮國ト云國ヘ行タリケルホトニ宮殿樓閣有キ集蟻  
宮ト云額オ打タル所有皮國ノ帝王此人ヲト、メテ  
ムコニス則男子ヲマウケテ寵愛ナノメナラス数十年  
オヘテ彼他國ヨリエヒスセメキタルホトニ是ヲナケク亦  
最愛妻病ニオカサレテ失ヌ盛衰ノ習眼前也愛  
敵國セメキタル間ナク、カノ國ヲ去テ本國ヘカヘルト思ヘリ  
ナルホトニ夢サメテ見レハ片時ノ眠ノ中也  
夢ト云句ノツマリタラン時ノ寄合

夢ニ朝雲暮雨付事

楚王巫陽臺ニ霞給ヘリアヤシキ女夢ノ中ニ契夢  
ノ枕ニイカナル人ソト問給ヘリ女云妻ハ巫山ノ神女也  
朝ニハ雲トナリ暮ニハ雨ト成トカタリテ夢ニワカレ  
ヌ王巫山ニ幸シテ見給ニタカハス雲雨ノ氣有王夢ノ  
名残ヲシタヒテ廟ヲ立テ神女ヲアカム巫女廟是也  
私云巫山ノ雲雨ヲハ儒家ニハ神祇ニサタメリ和才  
ニハヲホク哀傷ニノミ用タリ是ヲ源氏葵ノ卷ニ雨ト  
成雲トヤナリニケン今ハシラスト

源氏 見シヒトノ雨ト成ニシ雲半サヘイト、時雨ニカキクラス哉

「48オ

トヨミ給ヒケルヨリ哀傷ニ思ヒナラヒケルカ今案ニ紫

式部ハ才和漢ニワタリタリシ人也ヨロツノコトノツマヲカ

「48ウ

キヌヘキ所ヘヨセテ源氏ノ物語ヲハツクレリト見ヘタリサ  
レハ巫山ノ雲雨ハ神祇ナレトモ夢ノ契ノ跡ナキアハレヲ  
タヨリニテ葵ノ上ハカナクナレル名コリノ夢ノ様ニヲホユレハ  
雲ト成雨ト成トカケル所也

夢ノ後ト云事

院ノ御時殿上ノヲノコトモメシテ哥ヨマセ給ケルニ左大弁  
仲忠ニ題ヲメシケルニ夢ノ後ノ郭公ト云題ヲ奉ケルヲ各  
皆ツカウマツリテ後ニ此題イトアヤシ此世ヲハ夢ノ中ト  
イヘハ夢ノ後トハ後世ヲ云也ハシカルヘカラスト世ノ人申シ  
アヒタリシニイクホトナクテ隱マシマシキ

御幸

五二 墨ノエノキシノ松原トヲヤミニ我大君ノ御幸セシ比

「49オ

廿四 メツラシキ御幸ヲミワノ神ナラハシルシ有間ノ出陽ナルベシ

人体身

オナシクハ君トナラヒノ池ニコソ身ヲナケツトモ人ニキカセメ

顔目

後三 昨日見シ花ノ顔トテ今朝見レハネテコソ更色マサリケレ

目ニミヘヌ鬼神モアハレトテラスト云心也哥ニハ鬼神アハレト

テラス心也

吉八 思ヘトモ見ヲシワケネハ目ニミエヌ心ヲ君ニタクヘテソヤル

眉

後三 春ノ日ノカケロフ池ノ鏡ニハ柳ノ眉ソマツハ見ヘケル

源氏キリカケタツ物ニアラヤカナルカツラノハヒカ、レルニシロ

春花ソオノレヒトリエミノマユヒラケタトアリ 夕顔ノ

「 49ウ

卷頭ニ花ノヲノレヒトリエミノ眉ヒラケタル眉ニ夕顔ノ花

寄合也三月寄合也

髪

後十七 年フレハ我クロカミハ白川ノ水ヲクムマテ老ニケルカナ

頭

春ノ日ノ光ニアタル我ナレハ頭ノ雪トナルソワヒシキ

仏カク赤丹タラスハ水タマル池田朝臣カハナノ上ヲホレ

額

アヒヲモハヌ人ヲオモハ、大寺ノ餓鬼ノシリヘニヌカツクカコト

ヌカツクトハ額衝トカケリヲカミスルニハヒタヒラ地ニツクル故也

額ヲヌカトヨム事ハ和證ナラヒ也万葉ノ作者額田王トテンセリ

夜モアケヌヘキニヤアラン鳥ノ聲ナントハキコヘテミタケ

「 50オ

シヤウシニヤアランオコナヒタル聲ニテヌカツクソキコユル云

御聲モタエカタケニヲコナフモアハレナリ朝露ニコトナ

ラス世ヲ何事ヲムサホル身ノイノリニヤラントキ、給フ

南無当来導師トフシオカムナル源氏ノ夕顔ノ卷ノ隣ニ

キコユル聲也

鬚

苔 水消浪洗ニ舊苔鬚一

藥 剪レ鬚焼レ藥賜ニ功臣一

龍 撫龍鬚踏虎尾

耳

雲ノ上ニハルカニ楽ノ音スナリ人ニトハ、ヤソラ耳カモシ

胸

「 50ウ

ムネハ富士袖ハ清見カ関ナレヤ煙モ浪モタ、ヌ日ソナキ

瞼似ニ芙蓉一胸似レ玉

乳

拾十 人トナシムネノチフサヲホムラニテヤク墨染ノ衣キヨ君

腰

柳似ニ舞腰一池似鏡 山腰婦雁斜牽帶

足

源氏ノ御法卷車ノ足ヨハキト云々

詞九

命

万二 ウツセミノ命ヲオシミ波ニシテイラコソ嶋ノ玉モカリマス

吉十三 逢コトハ玉ノオハカリ名ノ立ハ吉野、川ノ瀧津瀬ノコト

「51オ

後拾三

八幡

サモコソハヤトハカハラメ住吉ノ松サハ杉ニ成<sup>ニ</sup>ケルカナ

吉十六 藤衣ハツ、糸ハワヒ人ノ涙ノ玉ノオトソナリヌル

心

吉三 久方ノ光ノトケキ春ノ日ニシツ心ナク花ノチルラン

三熊野、浦ノハマユフモ、ヘナル心ハ思ヘトタ、ニカモアハヌ

ハマユフハ草也カハノカサナリタル事百ヘハカリアルヲ昏ノ

コトクニ物カキナントスル事アリミクマ野、浦ハ伊勢国<sup>ニ</sup>

有包丁ニハマユフニテ雉ノ別足ヲツ、ムナラヒアリ此事

包丁ノ家ニツタヘタリ

老

老ラクノコムトシリセハ門サシテ

露ナカラヲリテカサ、ム菊ノ花老セヌ秋ノヒサシカルヘク

神祇部 伊勢

「51ウ

秋風ヤ伊勢ノハマ萩ヲリハ<sup>フセ</sup>ヘテ旅ネヤセマシアラキハマヘニ

天村雲神ト申ハ渡会此杖神也

久方ノアマノ露霜イク世経ヌミモスソ川ノチキノカタソキ

賴基 内外トモミエヌ扇ノホトナキニス、シキ風オイカテコメケン

此哥神祇トシモミヘネトモ伊勢<sup>ニ</sup>内外ト付ヌレハ大事

ナル間シルス也

拾十四 内外ナクナレモシナマシ玉簾タレカモ月ヲヘタテソメケン

極楽ヘマイラント思心モテ南無阿弥陀仏ト云モミ心

「52オ

八幡ノ御哥ト申ツタエタリ

チカキ程ニヤ八幡ノ宮ト申ハカシコニテツネニマフテ

イノリ申也松浦<sup>ニ</sup>笠嶋オナシ神也

私云笠嶋ハ八幡ノ同社也松浦<sup>ニ</sup>ハ天平ノ比太宰

大式広繼ノ靈垂跡シ給テ鏡宮ト申<sup>ニ</sup>玉カツラ

ノ筑紫ノ相浦<sup>ニ</sup>テツネ<sup>ニ</sup>マウテケルモ八幡ト此物

語<sup>ニ</sup>書リ不審ナル間其所ノ人<sup>ニ</sup>尋侍シカハ相浦<sup>ニ</sup>

唐櫃ト申所<sup>ニ</sup>八幡宮マシマスト云ヘリ玉カツ

ハカシコニマウテケルニヤ

鷺 高峰

昔於<sup>シヤクオ</sup>靈鷲山ト云御託宣<sup>タクセン</sup>ノ文有本地尺迦ト云此文<sup>コフモン</sup>

テ也鳩此鳥ハ大菩薩ノ靈鳥ナル上八幡ヲ鳩嶺ト申<sup>レイテウ</sup>

「52ウ

神木神ノカヤ御託宣<sup>ニ</sup>ノ文<sup>ニ</sup>神ノ木トナル事ハ斧<sup>ニ</sup>キラ

レサランカタメ神<sup>マ</sup>ノ萱トナル事ハカマニカラレサラン

タメ

橘 宮中靈木是ニスキス

鱗 放生会川ニ魚ヲハナツ大会是也

賀茂

チハヤフル賀茂ノ社ノヒメコ松万代フトモ色ハカハラシ  
我タノム人ラムナシクナスナラハ又雲分テノホルハカリソ  
鏡ニモカケミタラシノ水ノ面ニウツルハカリノ心トヲシレ

二首トモニ賀茂ノ御哥也

ヲホミ田ノウルホフハカリセキカケテイセキニヲトセ川上ノ神

此哥ハ天下日テリニテ雨コヒシケルニ貴船ニマイリテ

「53オ

ヨミケレハ雨クタリテ国土ウルホヒニケリト家ノ集ニ

ミヘタリ彼ノ業平鞠ノ大祖ニテ正流イマニ賀茂ニ在

春日

チハヤフル神ノ社ノナカリセハ春日ノ野ヘニ粟マカマシヲ

春日ノ社ハ榊ヲ神体ト習事

天照大神アマノ石窟ニ入マシテテ磐戸ヲ横テ籠マス国ノ

中常闇ニシテ夜昼ノカハルワサモシラス時ニヤヤ八十万神

其イノルヘキワサヲハカラフ中信連遠而祖天児屋根

命アマノカコ山ノ五百真坂樹ヲ握シテ上枝ニハ八坂瓊

之五百箇御鏡ヲカケ中ノ枝ニハ八咫ノ鏡ヲカケ下枝ニハ

青和幣白和幣トリカケテイノラシムコノ時天照大神

同之面白我此比岩屋ニコモリタリ豊葦原中国カナラス

「53ウ

常闇ユク覽トテ御手ヲモテ岩戸ヲホソメニアケテミソナ

ハス于時力雄ヲ神天照大神ノ御手ヲトリテ引出シ奉ル

此時天下ハシメテアキラカニナリヌアナ面白ト云詞自是初

マリヌ其時天照大神ノ御影ノウツラセ給タリシ榊ノミトリ

色カハル事ナクテ当社ノ神体ト成給ヌ今ノ神木是也天

照大神天児屋根命ニ仰テ云吾子孫ハ国王ナルヘシ汝カ子

孫ハ朝家ノ重臣タレト契給シ故ニ天照大神ノ御子孫ハ帝

位ヲツキ天児屋根命御子孫ハ摂政ト成給ヌ

マシテ春ノ村松ニイマタカレタル枝ハナシ

アマクタアルアラ人神ノアヒヲヒヲ思ヘハヒサシ住吉ノ松

住吉ノ岸ノ松カケ神サヒテミトリニマシルアケノ玉カキ

住吉ノ千木ノカタソキユキモアハテ霜ヲキマヨフ冬ハニケリ

「54オ

イクカヘリ花サキヌラン住吉ノ松モ神代ノ物トコソキケ

庭火ノ影モメリタルニ今 万歳々々榊葉ヲトリカヘシ

ツ、キハヒキコユ是 ナノマキ明石ノ女御ノ君ノ住吉ニ

マウテ給シ時ノ事也

皇

神宮皇后新羅ヲセメ給ハントテ鎮西ニ太宰府ノ北ナル

高山ニ登テ四天王ノ像ヲ手ツカラ造立シ給テ異国征伐

ノ御願ヲイノラセ給シニ天ヨリ明星天子ト月天子アマクタ

リ給テ皇后ニシタカヒ給ヌ月天子ハ信乃国諏訪大明神是也  
明星天子ハ摂津国住吉大明神是也此二神ハ天照大神ノ

アラミサキ也

敵  
弓箭

住吉 玉津嶋ハ哥ヲマホリ給御誓アリ

稻荷

後拾

イナリ山三ノ玉カキ打タ、キ我ネキコトハ神モコタエヨ

拾七

瀧ノ水カヘリテスマハイナリ山七日ノホレルシルシト思ハシ

事書ニ稻荷ノ宮殿ニ女ノ手ニテカキツケテ侍ケル

同

イナリ山社ノ数ヲ人トハ、ツレナキ人ヲミツトコタヘヨ

日吉

後拾

アキラケヨ日吉ノ御カケ君カタメ山ノカヒアル万代ヤヘム

新古

シルラメヤ今日ノ子ノ日ノ姫小松ヲイン末マテサカヘシトハ

日吉ノ社司社頭ノウシロノ山ニテ子日シテ侍ケル夜ノ夢ニ

見ヘタリケルトカヤ日吉ニウシロノ山尤モメツラシキ寄合也

平野

皇ノミカトノヲヤノオホチコソ平野、神ノヒコトナリケレ

生シケレ平野、原ノアヤスキヨコキムラサキニ立カサスヘク

チハヤフル平野、松ノ枝シケミ千代モ八千代モ色ハカハラシ

熊野

「54ウ

世ヲソムク山ノ南ノ松風ニ苔ノ衣ヤ夜サムナルラム

思ヒノ事身ニアマルマテナル瀧ノシハシヨトムヲナニウラムラン

道遠クホトモハルカニ  
モ思ヲコセヨ我モワスレシ

諏訪

ノ氷ノ上ノ通路ハ神ノワタリテトクルナリケリ

鏡社  
肥前

君ニモシ心タカハ、松浦ナル鏡ノ神ヲカケテチカハム

ヲノ上ノ松浦ニ  
時思ヒカケテヨメル哥也玉カツ

「55ウ

此人ニヲソレテ  
ケノホリケル也

貴布祢

川上ニ跡

三嶋

船ハ人ヲワタスナリケリ

アマノハ衣昔  
テフリケン袖ヤ今日ノハフリコ

事書ニ云式部大輔資業伊予守ニテ侍ケル時彼国ノ三

嶋ノ明神ニアツマアソヒシテ奉ケルヲヨメル

天ノ川苗代水ニセキクタセアマクタリマス神ナラハ神

三嶋ニテ雨コヒシケルニ此哥ヲヨミ侍ケル程ニ俄ニ天クモ

リテ雨フリ三日マテハレサリケルトカヤ

松

チハヤフル杉ノヲ山ノカケ見レハ今日ソ千年ノハシメナリケル

「56オ



鳥居

仲忠集 鳥牟<sup>ニ</sup>タツ相坂<sup>マサカ</sup>山<sup>ヤマ</sup>ノ境ナルタ、ケノ神ヨ我<sup>ニ</sup>イサメリ

クロキノ鳥牟モサスカニヤウ、シク見ワタサレテ是ハ野ノ

宮ノ事也

社

十哲 ユフカケテ浪ノシメユフ川社秋ヨリサキニス、シカリケリ

宮

千廿六 チハヤフルキツキノ宮ノ旅ネニハアフヒソ草ノ枕ナリケル

マツリノ使ニテ神タチノ宿所ヨリ齋院ノ女房<sup>ニ</sup>ツカハシケル

瑞籬

乙女コカ袖フル山ノ水カキノ久キヨ、リ思ヒソメテキ

祭

「56ウ

七タハソラニシルランサ、カニノイトカク斗マツル心ヲ

源順

松マホニカケナ

シテニ西<sup>ノイ</sup>ノ宮人アサマツリスル

シツイ

神祇

川社ノ祭也

三枝筭<sup>シノシシ</sup>

私云サキクサ

ツハト云寄合出来ヌレハ難義也

サキ草ノ祭

カルヘシ

明ニ狩人交野ノ小野<sup>ニ</sup>今日モクラシツ

俊頼

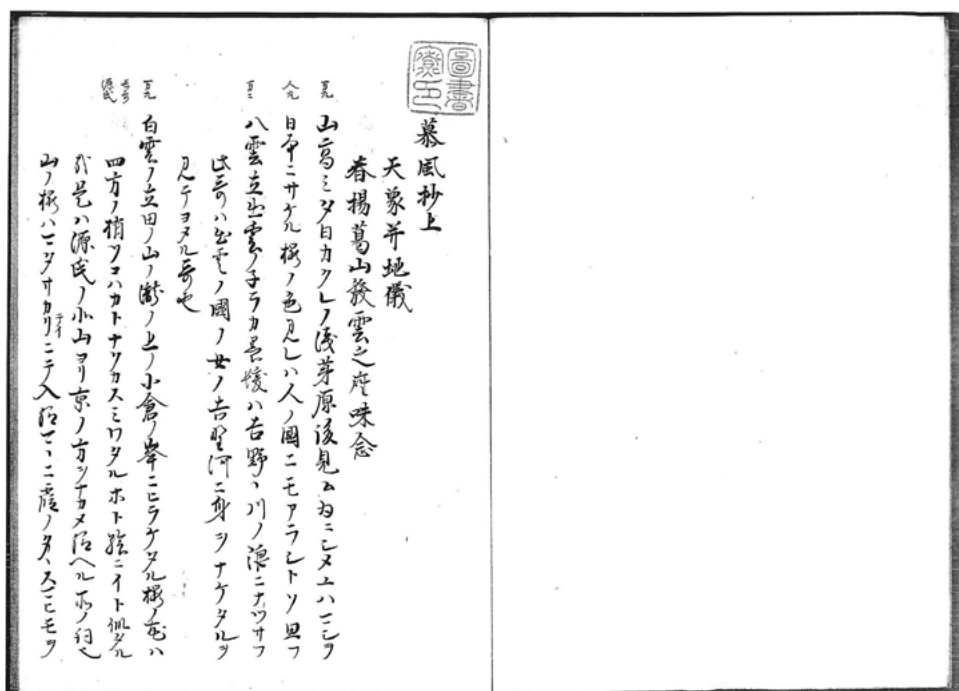
「57オ

「57ウ

「58オ

「58ウ

「後表紙



伊勢ノリニ胡ナタナニカワクテアハヒノ貝ノカタ思ヒテ

慕風抄下 難部上

全

天スヘラキノ浪代サカエントアツてんミナノク山ニ全花ナ  
可ミ鳥カサクアツてノ同ノミナノク山ニ全アリキト云

全ニ有ね台望峯々全峯山トテ峯山ノ峯ニ全有

菊己ハ詩金菊ト作レリ全精九日雨ト作レリ

文字一字千金ノ心ニ菊露満全地 雲々々々

玉

夢遊ノ花ナキミシタル花ナクトシテ玉ト見テアリトミ  
全凡吹ハ花ノウキナキミシタル花ナクトシテ玉ト見テアリトミ

後アサナキ玉ニノ菊ノウラレウラカタシタル花ナキニケリ

鉤

志本ナキル不破山ニエテフニ鉤

不夜ノ用ニ鉤客合ニメフナニ

四万鉤カ刀身ニトリソフト馬ノ足ツナニササレシ居アハムモ

是ハ居國ニ全レトイヒ人鉤ヲモナタリケル後居ト云

人ニケルハミシテアタエス餘君乃ニケリ後全ナレ

後全ニケリ後全ナレ

帶

可ミ大君ニ全ミ山ノヲヒニセ細谷川ノ名ノサヤケナ

石ニカ子フツキヒノ中山帯セレホノ谷川ノ音ノサヤケナ

山腰油鷹録

伊勢ノリニ胡ナタナニカワクテアハヒノ貝ノカタ思ヒテ

伊勢ノリニ胡ナタナニカワクテアハヒノ貝ノカタ思ヒテ

全

天スヘラキノ浪代サカエントアツてんミナノク山ニ全花ナ  
可ミ鳥カサクアツてノ同ノミナノク山ニ全アリキト云

全ニ有ね台望峯々全峯山トテ峯山ノ峯ニ全有

菊己ハ詩金菊ト作レリ全精九日雨ト作レリ

文字一字千金ノ心ニ菊露満全地 雲々々々

玉

夢遊ノ花ナキミシタル花ナクトシテ玉ト見テアリトミ  
全凡吹ハ花ノウキナキミシタル花ナクトシテ玉ト見テアリトミ

後アサナキ玉ニノ菊ノウラレウラカタシタル花ナキニケリ

鉤

志本ナキル不破山ニエテフニ鉤

不夜ノ用ニ鉤客合ニメフナニ

四万鉤カ刀身ニトリソフト馬ノ足ツナニササレシ居アハムモ

是ハ居國ニ全レトイヒ人鉤ヲモナタリケル後居ト云

人ニケルハミシテアタエス餘君乃ニケリ後全ナレ

後全ニケリ後全ナレ

帶

可ミ大君ニ全ミ山ノヲヒニセ細谷川ノ名ノサヤケナ

石ニカ子フツキヒノ中山帯セレホノ谷川ノ音ノサヤケナ

山腰油鷹録

